

※ポリシーとの関連性

地域と人々のあゆみを深く知るにより、自らの生きていく社会と自身の在り方を考える場となることを目指す。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 沖縄戦	期別 後期	曜日・時限 水2	単位 2
	担当者 -伊佐 真一郎	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			講義終了後に教室にて、またはメールptt1130@okiu.ac.jpにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄の歴史上欠かすことができない「沖縄戦」について、様々な資料を用いながら理解を深めていきます。沖縄戦がいかにして行われ、人々が何を体験したのかはもとより、沖縄戦に起因する戦後の諸問題、沖縄戦の記録・継承活動などへも視野を広げて解説していきます。また、講義で紹介する日米両軍の資料や証言など資料を通して「過去を知り、向き合う方法」を体得して下さい。	メッセージ 私達が沖縄戦について広く知り深く考えることの意義がいささかも色褪せていないことは、沖縄戦の話題が今日に至るまで絶えることなく続いていることから示されています。この講義で扱う沖縄戦という出来事を通して、その後現在までの沖縄の歩み、そこに生きた人々の姿、そして今なお世界中で戦争が続く現状を想像し、向き合う機会となるよう望みます。
	到達目標 沖縄戦についてさまざまな視点から学び理解することで、「人々の体験を聞き、記録することができる」「資料館や戦争遺跡、各種資料を用いて沖縄戦について伝えることができる」「自らの関心に基づいてテーマを設定し、適切に資料を選択/活用し、学習/研究活動の質をより高めることができる」の3点を到達目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション・なぜ「沖縄戦」か（講義の流れ、ねらい、評価方法）	参考文献を読む
	2	戦争を知る①（沖縄戦の「今」を考える）	参考文献を読む
	3	戦争を知る②（資料館・戦争遺跡）	フィールドワーク
	4	戦争を知る③（体験を話す/聞く、芸術・表現）	フィールドワーク
	5	戦争と社会①（沖縄の近代、兵役、教育、国家・戦争への意識）	史資料を読む
	6	戦争と社会②（戦況の変化、人々の暮らし）	史資料を読む
	7	臨戦態勢下①（日本軍沖縄配備と住民）	体験証言を読む
	8	臨戦態勢下②（県外疎開、空襲、移民・出稼ぎと戦争）	体験証言を読む
	9	臨戦態勢下③（北部疎開、根こそぎ動員）	体験証言を読む
	10	沖縄の戦争①（日米両軍の戦略と戦術、戦闘経過、記録映像）	史資料を読む
	11	沖縄の戦争②（地域・島じま・人びとの戦争）	体験証言を読む
	12	沖縄の戦争③（収容所、基地建設）	体験証言を読む
	13	沖縄の戦争④（戦争と衣食住、病気）	資料から考える
	14	戦争は終わったのか（戦後復興、引き揚げ、遺骨収集）	資料から考える
15	戦争は終わったのか（記憶の継承、記録活動、これからの課題）	授業内容を振り返り整理する	
16	期末試験	自分の考えをまとめる	
実践	テキスト・参考文献・資料など 『字誌』などの地域史/誌 『沖縄県史 各論編 第六巻 沖縄戦』（沖縄県教育委員会、2017） 吉浜忍 著『沖縄の戦争遺跡（記憶）を未来につなげる』（吉川弘文館、2017） 林博史 著『沖縄戦と民衆』（大月書店、2001年） 吉浜忍・林博史・吉川由紀 編『沖縄戦を知る事典』（吉川弘文館、2019）など		
	学びの手立て ・沖縄戦を理解するためには戦争体験者の証言に触れることが欠かせません。これまで各市町村や様々な個人・団体などによる証言記録が数多く刊行されているほか、資料館やウェブサイトでの情報公開も充実しつつあります。まずは自分の地域の戦争体験者の証言を読み、自分の地域の戦争について知ってください。 ・講義の内容や自らの関心による積極的な質問や相談は歓迎します。		
	評価 ・評価は講義各回で提出するリアクションペーパー30点、期末試験30点、レポート課題40点の合計100点を満点として評価します。出席や講義の理解度はリアクションペーパーにて確認します。出席率が3分の2に満たない場合は評価の対象なりません。 ・届け出の無い欠席やリアクションペーパーの不提出は理由の如何を問わず考慮しません。 ・私語などの迷惑行為に対しては減点・退室・出席を認めない場合があります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄に関する様々な科目を通して、今日までの沖縄の歩みと現代沖縄の諸問題の関係を整理して理解を深めて下さい。また、より関心を高めて自らのオリジナル・テーマを設定し、現場調査や資料の分析を通して新たな切り口で沖縄戦を考察してみてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖繩戦	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊佐 真一郎	1年	講義終了後に教室にて、またはメールptt1130@okiu.ac.jpにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖繩の歴史上欠かすことができない「沖繩戦」について、様々な資料を用いながら理解を深めていきます。沖繩戦がいかにして行われ、人々が何を体験したのかはもとより、沖繩戦に起因する戦後の諸問題、沖繩戦の記録・継承活動などへも視野を広げて解説していきます。また、史資料や証言、表現など数多くの記録手段を通して「過去を知り、向き合う方法」を体得して下さい。	私達が沖繩戦について広く知り深く考えることの意義がいささかも色褪せていないことは、沖繩戦の話題が今日に至るまで絶えることなく続いていることから示されています。この講義で扱う沖繩戦という出来事を通して、その後現在までの沖繩の歩み、そこに生きた人々の姿、そして今なお世界中で戦争が続く現状を想像し、向き合う機会となるよう望みます。
到達目標	沖繩戦についてさまざまな視点から学び理解することで、「人々の体験を聞き、記録することができる」「資料館や戦争遺跡、各種資料を用いて沖繩戦について伝えることができる」「自らの関心に基づいてテーマを設定し、適切に資料を選択/活用し、学習/研究活動の質をより高めることができる」の3点を到達目標とします。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション・なぜ「沖繩戦」か（講義の流れ、ねらい、評価方法）	参考文献を読む
	2	戦争を知るために① 沖繩戦の「今」を考える、「沖繩戦」を知るためのモデルコース	フィールドワーク
	3	戦争を知るために② 近代沖繩についての基礎知識	フィールドワーク
	4	戦争と社会① 沖繩の近代、兵役、教育、国家・戦争への意識	デジタルアーカイブを使う
	5	戦争と社会② 戦争の時代と人々の暮らし、	史資料を読む
	6	臨戦態勢下① 日本軍沖繩配備と住民	史資料を読む
	7	臨戦態勢下② アジア・太平洋における戦況、空襲、疎開計画	文献・資料を読む
	8	沖繩の戦争① 日本軍と米軍の戦い、記録映像	記録映像を観る
	9	沖繩の戦争② 根こそぎ動員、避難民、学徒隊	フィールドワーク
	10	沖繩の戦争③ 地域・島じま・人びとの戦争	資料・文献を読む
	11	沖繩の戦争④ 収容所と基地建設	体験証言を読む
	12	沖繩の戦争⑤ 戦争と衣食住、病気、精神	資料・文献を読む
	13	沖繩の戦争⑥ 県外・海外での戦争と引き揚げ	資料から考える
	14	戦争は終わったのか① 戦後復興、遺骨収集、不発弾	資料から考える
15	戦争は終わったのか② 記録調査の取り組み、戦争文化財、継承の方法	授業内容を振り返り整理する	
16	期末試験	自分の考えをまとめる	

テキスト・参考文献・資料など	指定する教科書はありません。講義で配布するレジュメで参考文献・資料を紹介します。 参考文献：『市町村史』『字誌』などの地域史/誌 『沖繩県史 各論編 第六巻 沖繩戦』（沖繩県教育委員会、2017） 吉浜忍 著『沖繩の戦争遺跡（記憶）を未来につなげる』（吉川弘文館、2017） 林博史 著『沖繩戦と民衆』（大月書店、2001年） 吉浜忍・林博史・吉川由紀 編『沖繩戦を知る事典』（吉川弘文館、2019）など
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖繩戦を理解するためには戦争体験者の証言に触れることが欠かせません。これまで各市町村や様々な個人・団体などによる証言記録が数多く刊行されているほか、資料館やウェブサイトでの情報公開も充実しつつあります。まずは自分の地域の戦争体験者の証言を読み、自分の地域の戦争について知ってください。</li> <li>・教室での受講を前提に授業を進めていきます。板書、映像・画像・音楽は教室でのみ紹介します。</li> <li>・講義の内容や自らの関心による積極的な質問や相談は歓迎します。</li> </ul>
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は講義各回で提出するリアクションペーパー30点、期末試験30点、レポート課題40点の合計100点を満点として評価します。出席や講義の理解度はリアクションペーパーにて確認します。出席率が3分の2に満たない場合は評価の対象なりません。</li> <li>・届け出の無い欠席やリアクションペーパーの不提出は理由の如何を問わず考慮しません。</li> <li>・私語などの迷惑行為に対しては減点・退室・出席を認めない場合があります。</li> </ul>
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖繩に関する様々な科目を通して、今日までの沖繩の歩みと現代沖繩の諸問題の関係を整理して理解を深めて下さい。また、より関心を高めて自らのオリジナル・テーマを設定し、現場調査や資料の分析を通して新たな切り口で沖繩戦を考察してみてください。
-------	--

※ポリシーとの関連性 沖縄の観光をテーマに、自らが生きる社会の、地域経済の見識を深めるための講義となる。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の観光	前期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住 直広	1年	授業終了後に教室で受け付けます。 ptt514@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	観光は基本的に人と場所に関する現象だと言われている。つまり、観光はレジャーやレクリエーションを主目的に旅行した際の、一時的滞在や移動に発生する現象ととらえることができる。したがって、本講義では、観光客の受け入れ側である観光地で展開される自然的・社会的・経済的な現象を総合的に検討し、観光地特有の問題・課題や観光地づくりについて概説する。	沖縄の観光について、現状・課題などを幅広く伝える。この機会に、沖縄についての見識を深めて下さい。

到達目標	本講義は、ゲストとしては楽しい観光であるが、その観光をホスト側の視点に立ち、誘客方法や、受け入れ側の問題や課題を認識し、その対応策を考える能力を身につけることを目標とします。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスをよく読むこと
	2	沖縄観光の展開と観光客特性	レジュメをよく読むこと
	3	観光資源（自然・人文資源、世界遺産、課題と対応）	同上
	4	観光産業①宿泊施設（ホテル、民泊、民宿など）	同上
	5	観光産業②運輸業（航空業、レンタカー、観光バス、クルーズ船など）	同上
	6	観光産業③ダイビングサービス（事業者特性、海面利用問題）	同上
	7	観光産業④旅行業	同上
	8	観光産業⑤テーマパーク、エステ・スパ、ショッピングツーリズム	同上
	9	観光による影響①経済的影響、自然的影響	同上
	10	観光による影響②社会・文化的影響	同上
	11	持続可能な観光①エコツーリズム	同上
	12	持続可能な観光②グリーンツーリズム、ウェルネス、健康保養観光	同上
	13	観光政策・沖縄観光振興計画と振興事業（リゾートウェディング、フィルムオフィスなど）	同上
	14	地域の取組み	同上
15	映像でみる沖縄観光	同上	
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。適宜指示する。 日頃より新聞を読むこと。
-------	--

学びの手立て	私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。 病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。 講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。 また、実際、観光業へ就職したい学生の履修が望まれる。
--------	--

評価	レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。
----	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、「観光経済論」、「観光情報論」がある。 実際、宿泊施設や観光地などに足を運び、観光客の動向を自分の目で確かめることが望ましい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の観光	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住 直広	1年	授業終了後に教室で受け付けます。 ptt514@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	観光は基本的に人と場所に関する現象だと言われている。つまり、観光はレジャーやレクリエーションを主目的に旅行した際の、一時的滞在や移動に発生する現象ととらえることができる。したがって、本講義では、観光客の受け入れ側である観光地で展開される自然的・社会的・経済的な現象を総合的に検討し、観光地特有の問題・課題や観光地づくりについて概説する。	沖縄の観光について、現状・課題などを幅広く伝える。この機会に、沖縄についての見識を深めて下さい。
到達目標	本講義は、ゲストとしては楽しい観光であるが、その観光をホスト側の視点に立ち、誘客方法や、受け入れ側の問題や課題を認識し、その対応策を考える能力を身につけることを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	シラバスをよく読むこと
	2	沖縄観光の展開と観光客特性	レジュメをよく読むこと
	3	観光資源（自然・人文資源、世界遺産、課題と対応）	同上
	4	観光産業①宿泊施設（ホテル、民泊、民宿など）	同上
	5	観光産業②運輸業（航空業、レンタカー、観光バス、クルーズ船など）	同上
	6	観光産業③ダイビングサービス（事業者特性、海面利用問題）	同上
	7	観光産業④旅行業	同上
	8	観光産業⑤テーマパーク、エステ・スパ、ショッピングツーリズム	同上
	9	観光による影響①経済的影響、自然的影響	同上
	10	観光による影響②社会・文化的影響	同上
	11	持続可能な観光①エコツーリズム	同上
	12	持続可能な観光②グリーンツーリズム、ウェルネス、健康保養観光	同上
	13	観光政策・沖縄観光振興計画と振興事業（リゾートウェディング、フィルムオフィスなど）	同上
14	地域の取組み	同上	
15	映像でみる沖縄観光	同上	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	講義では、その都度レジュメ・資料等を配布する。適宜指示する。 日頃より新聞を読むこと。		
学びの手立て	私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。 病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。 講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。 また、実際、観光業へ就職したい学生の履修が望まれる。		
評価	レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、「観光経済論」、「観光情報論」がある。 実際、宿泊施設や観光地などに足を運び、観光客の動向を自分の目で確かめることが望ましい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の基地問題A	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川 朋子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「基地問題」を基地に隣接する環境で暮らす生活者として考えていく。	メッセージ 沖縄の「基地問題」を学ぶことで、「基地問題」を解決する方法について考えるきっかけになることを期待したい。
	到達目標 沖縄の米軍基地から発生した事故、事件を学ぶことで、「基地問題」の本質について考えることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	シラバスを読む
	2	講義を受講するにあたって（受講者確定）	配布資料、参考文献を読む
	3	軍用機墜落と大学（1）	配布資料、参考文献を読む
	4	軍用機墜落と大学（2）	配布資料、参考文献を読む
	5	軍用機墜落と大学（3）	配布資料、参考文献を読む
	6	石川・宮森小学校ジェット機墜落事件と住民（1）	配布資料、参考文献を読む
	7	石川・宮森小学校ジェット機墜落事件と住民（2）	配布資料、参考文献を読む
	8	沖縄の米軍基地の歴史（1）	配布資料、参考文献を読む
9	沖縄の米軍基地の歴史（2）	配布資料、参考文献を読む	
10	沖縄の米軍基地の概要	配布資料、参考文献を読む	
11	米軍基地から派生する爆音	配布資料、参考文献を読む	
12	米軍基地と経済	配布資料、参考文献を読む	
13	米軍基地と都市形成	配布資料、参考文献を読む	
14	米軍基地と生活	配布資料、参考文献を読む	
15	予備、レポート	復習をする	
16	テストまたはレポート	復習をする	
	テキスト・参考文献・資料など 講義は毎回配布するレジюмеと資料に沿って行う。参考文献等は講義のなかで適宜紹介する。DVD等の動画も使用する予定。		
	学びの手立て 講義内容に関連する参考文献等を探索し、積極的に知見を深めていく。		
	評価 講義でのリアクションペーパー等により、出席・講義理解状況を把握する。課題やテストのみの提出や受験は採点対象としない。リアクションペーパーの提出回数が2/3に達していない場合は不可となる。 リアクションペーパー40パーセント、テスト、レポート60パーセント		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄関係科目の受講を薦める。
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の基地問題B	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-河村 雅美	1年	授業時間の一部を質問の時間にしています。 問い合わせメールはptt503@okiu.ac.jpへ。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の米軍基地はあまりにも当たり前として受けとめられている存在です。その存在を様々な角度から見直していく授業です。特に、私たちの暮らしている生活空間にどのような影響を現在に至るまで歴史的に及ぼしてきたかを見ていく授業です。授業では特に環境問題に焦点をあて、米軍基地の環境や人々への影響の理解を目指します。</p>	<p>講師は環境団体の代表を務めているので、自らの調査結果を交えてみなさんにお話していく講義となります。関係する日々のニュースの解説もしています。私たちのなじみのある場所と基地との関係（例えばアメリカンビレッジ、イオンモールライカム等）について意識していく機会を提供したり、暮らしの中で基地を考える授業になります。</p>
到達目標	<p>1) 海外の例を知ることにより、沖縄の問題を考えるとときにグローバルな視点を持つて考えることができるようになる。 2) 沖縄の米軍基地に係る歴史を知ることができる。 3) 現在進行形の問題とその背景を知ることができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（授業のねらい、流れの紹介、講師の自己紹介）	次回授業までの課題（ワーク）
	2	1 (1) 「米軍基地」とは何か：セッション目的説明	配布資料の事後学習
	3	(2) 沖縄の米軍基地の概要：	リアクションペーパー執筆
	4	2 (1) 米軍基地/の形成/風景に消えた基地/ セッション目的説明	配布資料の事後学習
	5	(2) 沖縄の基地の形成 普天間飛行場を中心に	配布資料を事後学習
	6	(3) 基地内の自然資源、文化財	配布資料を事後学習 中間課題準備
	7	(4) 米軍基地と水：奪われた水源	中間課題執筆
	8	3 (1) 米軍基地と暮らし 米軍基地と環境問題：セッション目的説明	配布資料の事後学習
	9	(2) 日米地位協定・日米合同委員会・環境関係の権利 概論	次回授業までの課題（ワーク）
	10	(3) 日米地位協定・日米合同委員会・環境関係の権利 事例紹介	配布資料の事後学習
	11	(4) 生活空間の環境問題 土壌汚染 返還跡地という問題	配布資料の事後学習
	12	(4) 生活空間の環境問題 土壌汚染 事例紹介	リアクションペーパー執筆
	13	(5) 生活空間の環境問題 水質汚染 有機フッ素化合物（PFAS）問題	配布資料を事後学習する
	14	生活空間の環境問題 水質汚染 有機フッ素化合物（PFAS） 事例紹介	最終課題準備
15	予備日	最終課題準備	
16	（レポート提出）		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用せず、講師の作成した授業用の資料を用い、講師の授業のサイトで関連資料や関連動画とともに共有します。 参考文献はその都度、紹介します。 連絡はポータル等を通じて連絡します。</p>
-------	--

学びの手立て	<p>①履修の心構え 現代史の概要（特に第二次世界大戦、沖縄戦、ベトナム戦争など）については各自、概説書などで自習してください。</p> <p>②「学びを深めるために」 県内メディア等の報道で沖縄の米軍基地問題で何が問題になっているかを各自、日々把握してください。</p>
--------	--

評価	<p>平常点：リアクションペーパーやワークの提出等 40% （セッション毎の理解度を文章で評価する。到達目標の1）、2）を評価する） 最終課題60% （授業全体の理解度と、到達目標の2）、3）を評価する） 課題のみの提出は採点対象としない。リアクションペーパーの提出回数が規定の2/3に達していない場合は不可となる。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 平和学やジェンダー関係など視野を広める科目を受講してもらいたいと思います。担当者も「国際関係論」「アジア社会論」の科目を開講しており、関連事項を話しています。</p> <p>(2) 次のステージ</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の経済	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	1年	m.higa@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄経済について入門的な内容を講義する。沖縄経済の現状や課題等について、自分の意見を持てるようになる。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 沖縄経済の現状と課題を理解しつつ、国内外の経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの準備	到達目標 沖縄経済の現状と課題を理解しつつ、国内外の経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション - 講義の進め方、本講義のキーワード
	2	日本経済のなかの沖縄経済 - データでみる日本経済、地域経済 -
	3	幸福と経済（沖縄振興を考える） - 幸福度、経済力と人間開発指数、国民総幸福量 -
	4	沖縄経済の実情① - 県内総生産、失業率、一人当たり県民所得、所得格差 -
	5	沖縄経済の実情② - 財政構造、観光収入、公的依存度 -
	6	沖縄経済の歴史① - 戦後米国による沖縄政策 -
	7	沖縄経済の歴史② - 日本復帰と沖縄経済 -
	8	戦後日本の地域政策 - 国土の均衡発展、地域間格差の是正 -
	9	沖縄における地域振興策① - 日本の地域政策との関係 -
	10	沖縄における地域振興策② - 沖縄振興開発特別措置法、沖縄振興開発計画 -
	11	沖縄における地域振興策③ - 沖縄21世紀ビジョン、これからの沖縄振興策 -
	12	沖縄振興予算① - 沖縄振興予算とは何か、国と地方（沖縄県）の財政関係 -
	13	沖縄振興予算② - 沖縄振興予算の類似県比較：単年度比較 -
	14	沖縄振興予算③ - 沖縄振興予算の類似県比較：時系列比較 -
	15	総括 - これからの沖縄経済、新たな振興策のあり方 -
16	期末テスト	
		時間外学習の内容
		シラバスの確認
		経済統計に関する予習
		経済統計に関する予習
		地域経済統計に関する予習
		地域経済統計に関する予習
		沖縄経済関連文献の精読
		沖縄経済関連文献の精読
		沖縄経済関連文献の精読
		沖縄経済関連文献の精読
		沖縄経済関連文献の精読
		沖縄経済関連文献の精読
		講義全体の復習
		講義全体の復習

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト無し（適宜パワーポイント資料を配布する）。 参考文献：沖縄国際大学経済学科編（2020）『沖縄経済入門 第2版』東洋企画。池宮城秀正編（2016）『国と沖縄県の財政関係』清文社。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 沖縄の最新情報を知るために、新聞等に目を通しておくこと。
-------	--

学びの実践	評価 期末テスト（70%）、小テスト（20%）、受講態度（10%）で評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済政策総論Ⅱ、公共経済学
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の経済	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	1年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄経済について入門的な内容を講義する。沖縄経済の現状や課題等について、自分の意見を持てるようになる	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 沖縄経済の現状と課題を理解しつつ、国内外の経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの準備	到達目標 沖縄経済の現状と課題を理解しつつ、国内外の経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション - 講義の進め方、本講義のキーワード
	2	日本経済のなかの沖縄経済 - データでみる日本経済、地域経済 -
	3	幸福と経済（沖縄振興を考える） - 幸福度、経済力と人間開発指数、国民総幸福量 -
	4	沖縄経済の実情① - 県内総生産、失業率、一人当たり県民所得、所得格差 -
	5	沖縄経済の実情② - 財政構造、観光収入、公的依存度 -
	6	沖縄経済の歴史① - 戦後米国による沖縄政策 -
	7	沖縄経済の歴史② - 日本復帰と沖縄経済 -
	8	戦後日本の地域政策 - 国土の均衡発展、地域間格差の是正 -
	9	沖縄における地域振興策① - 日本の地域政策との関係 -
	10	沖縄における地域振興策② - 沖縄振興開発特別措置法、沖縄振興開発計画 -
	11	沖縄における地域振興策③ - 沖縄21世紀ビジョン、これからの沖縄振興策 -
	12	沖縄振興予算① - 沖縄振興予算とは何か、国と地方（沖縄県）の財政関係 -
	13	沖縄振興予算② - 沖縄振興予算の類似県比較：単年度比較 -
	14	沖縄振興予算③ - 沖縄振興予算の類似県比較：時系列比較 -
	15	総括 - これからの沖縄経済、新たな振興策のあり方 -
16	期末テスト	
		時間外学習の内容
		シラバスの確認
		経済統計に関する予習
		経済統計に関する予習
		地域経済統計に関する予習
		地域経済統計に関する予習
		沖縄経済関連文献の精読
		沖縄経済関連文献の精読
		沖縄経済関連文献の精読
		沖縄経済関連文献の精読
		沖縄経済関連文献の精読
		沖縄経済関連文献の精読
		講義全体の復習
		講義全体の復習

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト無し（適宜パワーポイント資料を配布する）。 参考文献：沖縄国際大学経済学科編（2020）『沖縄経済入門 第2版』東洋企画。池宮城秀正編（2016）『国と沖縄県の財政関係』清文社。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 沖縄の最新情報を知るために、新聞等に目を通しておくこと。
-------	--

学びの実践	評価 期末テスト（70%）、小テスト（20%）、受講態度（10%）で評価する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済政策総論Ⅱ、公共経済学
-------	------------------------------



※ポリシーとの関連性 琉球文化圏における芸能の基礎的知識を学び、各地域（シマ・村落）に根付く芸能・祭り・歌謡の特性を知る。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の芸能	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	伊藤 幸太・仲本 陽兵	1年	学内メールにて受付	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日常生活空間において、あたかも風景のように存在している沖縄の芸能や歌謡が琉球文化の古層を今に伝える貴重な財産であるということと共に、身近に経験できるものとしてアイデンティティを形成する重要な一つであるということを実感する機会の提供。地域に生きる、または文化を伝える側の人材としての基礎的教養を各地の民俗芸能の事例を学ぶことで身に付けることをねらいとする。</p>	<p>「沖縄」という場所について「芸能」の視点から奄美・沖縄・宮古・八重山の文化圏におけるそれを映像資料や実演等を通して、基礎的知識を習得し、「自分」の生活している沖縄を見つめなおす機会になればと思います。</p>
到達目標	<p>・自らが生活する「沖縄」の文化を知り、芸能における基礎的な知識を専門科目を履修する際の前提として理解することができる。          ・琉球文化圏と各地域における独自の芸能群の存在を基礎知識を基に関連付けて把握することができる。          ・映像資料や実演をとおして芸能に触れることとで、自分と沖縄文化を今の生活と結びつけて考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス／琉球列島の芸能と歌謡について	本時の復習
2	沖縄の歌謡①（琉歌を中心に）	本時の復習と次回の予習	
3	沖縄の歌謡②（琉歌を中心に）	本時の復習と次回の予習	
4	沖縄の歌謡③（琉歌を中心に）	本時の復習と次回の予習	
5	沖縄の歌謡④（エイサーその他）	本時の復習と次回の予習	
6	八重山の歌謡①（呪禱的叙事的歌謡）	本時の復習と次回の予習	
7	八重山の歌謡②（叙事的歌謡・アヨー・ジラバ・ユンタ）	本時の復習と次回の予習	
8	八重山の歌謡③（抒情的歌謡・節歌等）	本時の復習と次回の予習	
9	宮古諸島の芸能と神祭り	本時の復習と次回の予習	
10	宮古諸島の祭祀歌謡 1	本時の復習と次回の予習	
11	宮古諸島の祭祀歌謡 2	本時の復習と次回の予習	
12	宮古諸島の祭祀歌謡 3	本時の復習と次回の予習	
13	宮古諸島の祭祀歌謡 4	本時の復習と次回の予習	
14	宮古諸島の祭祀歌謡 5	本時の復習と次回の予習	
15	三線文化と宮古諸島の祭り 1	本時の復習とふりかえり	
16	テスト	ふりかえりによる自己採点	
テキスト・参考文献・資料など	講義ごとに資料・参考文献等は適時紹介。		
学びの手立て	<p>①「履修の心構え」          毎回、受講後の感想文提出によって出席を確認する。その講義で、自らが考えたこと、感じた事、質問等を記入すること。</p> <p>②「学びを深めるために」          毎回の講義内容と、自らの周辺や生活等が関連付けられることを発見すること、例えば出身地で行われている祭りを調べるなどして受講するとより芸能が身近に感じられ理解が深まります。また、講義受講後にフィールドワークを行うことをお勧めします。</p>		
評価	<p>期末に試験を行う。          規定をこえる遅刻および欠席に関しては単位を認めない。          成績評価配分：受講態度及びレポート20%＋考査80%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「沖縄の文学」「沖縄の民話」「沖縄の言語」等の沖縄科目郡の同時・継続履修。日本文化関連専門科目として「琉球文化論」「琉球文学特殊講義」、古典芸能を学ぶものとして「琉球芸能史」「日本芸能史」。社会文化関連科目専門科目として「南島民俗学」「琉球アジア文化論」等。または沖縄で生活する自己の具体的表現として実演（踊りや三線等）を始める契機としてほしい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名 沖縄の言語	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -仲原 穰	後期	火 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業終了後に教室で受け付けるほか、Teamsの個人用チャットでも質問に答えます。	

学びの準備	ねらい 奄美・沖縄では現在も高年層を中心に伝統的なことば（＝琉球語）が使われていますが、若年層は高年層が使う琉球語が理解できず、中年層も琉球語のみで会話できる人はほとんどいません。このままでは、近い将来、琉球語が失われてしまいます。この講義では琉球語の基礎を学び、家庭や地域・社会で学ぶための足がかりにするねらいがあります。	メッセージ 講義が半期と限られているため、琉球語すべてについて詳しくとりあげることができません。3回目以降は「沖縄語」を中心に講義を進めます。講義ではこのほかに琉球語と日本語、現代日本語諸方言との関わり、沖縄のわらべうた・民謡・ことわざ等も取り扱う予定です。
	到達目標 この授業の到達目標は以下の3点です。①まず、沖縄語を母語とする話者（高年層）の話すことばを5割程度理解できるようになることです。講義を毎回受講し、事前・事後学習をきちんと行えば、受講前には理解できなかった高年層のことばを受講後にはある程度理解できるようになります。②琉球語についての概略について他者へ説明できるようになることです。③高年層と簡単な会話をおこなえるようになることです。講義では単語から句へ、句から短い文へと学びを進めます。講義では、高年層との会話で用いることができる表現も学びます。※なお、対面授業が可能な場合は①の理解度を6割程度に上げ、授業計画を教科書の6課まで進めます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	シラバスの確認／琉球語とは一名称・範囲・下位区分・現状―／世界の危機言語のとりくみ
	2	琉球語はどこから来たのか？―系統と借用語など―
	3	挨拶ことば／ハ行音の歴史―日本語と琉球語― /琉球諸語の多様性
	4	三母音の原則／連母音の融合
	5	子音の口蓋化①②（三母音の原則／連母音の融合の残り）
	6	子音の口蓋化③／「～が」の使い分け／指示語
	7	1拍語の特徴／サ形容詞の終止形・連体形・ヌ形
	8	動詞の終止形／動詞の否定形・命令形・禁止形
	9	ラ行動詞の禁止形／語中・語尾の「～り」
	10	ア行（イ・ウ）とヤ行（イイ）・ワ行（ウウ）の区別／「～ヤ」の融合
	11	動詞の終止形・連体形の違い／沖縄語の係り結び／「～を」
	12	これまでのまとめ／「～に」／動詞の志向形
	13	疑問文の作り方／声門閉鎖音の特徴
	14	awaはaa／丁寧な言い方（名詞文・形容詞文）
	15	動詞の連用形／尾略形
16	期末試験	
	時間外学習の内容	
	シラバスや配布資料をよく読むこと	
	配布資料で琉球語の概説を理解する	
	練習問題（宿題）／テキスト1課	
	練習問題（宿題）／テキスト1課	
	練習問題（宿題）／テキスト1課	
	練習問題（宿題）／テキスト2課	
	練習問題（宿題）／テキスト2課	
	練習問題（宿題）／テキスト3課	
	練習問題（宿題）／テキスト3課	
	練習問題（宿題）／テキスト3課	
	練習問題（宿題）／テキスト4課	
	練習問題（宿題）／テキスト4課	
	練習問題（宿題）／テキスト4課	
	練習問題（宿題）／テキスト5課	
	練習問題（宿題）／テキスト5課	

実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ※テキストは講義で使用します。購入するか、近くの図書館などで借りて手元に準備してください。『沖縄語の入門（CD付改訂版）一たのしいウチナーグチー』（白水社、2006[2000]年）西岡敏・仲原穰【著】、中島由美・伊狩典子【協力】 【参考文献】『沖縄語辞典―那覇方言を中心に―』内間直仁・野原三義編著（研究社、2006年）／『沖縄語辞典』国立国語研究所編（財務省[大蔵省]印刷局、2001[1963]年）／『初級 沖縄語』花園悟【著】、国吉朝政【協力】、西岡敏・仲原穰【監修】（研究社、2020年）
----	--

学びの手立て	この講義は半期で沖縄の言語の基礎について学びます（外国語など他の語学は週2回）。そのため、1回の講義で多くのことを学び、覚えなくてはなりません。欠席がすると講義についていけなくなる可能性が高いので、体調不良などやむを得ない場合以外は、なるべく休まないでください。また、沖縄の老年層のことばは若年層のことばとかなり異なっています。普段使っていることばだから簡単だろう、また、普段から耳にしているから勉強しなくても大丈夫などとあなどることなく、「第2外国語を習得する」ぐらいの気持ちで取り組んでください。事後・事前学習（①配布されたプリントや教科書を読み返し、練習問題を解くなどの取り組み。②琉球語を話す人々の使用する伝統的なことばに常に興味を持ち、講義内容との違いについて考える、等）を行うと到達目標に近づきます。※配布した資料は配布順にバインダーなどに入れ、毎時間持参してください。
--------	---

評価	期末試験（75%）＋授業のまとめとコメントの提出（Googleフォームで期限内に提出）（25%）によって評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目：「琉球語会話Ⅱ」（日本文化学科） (2)次のステージ：講義終了後は教科書の残りの部分を授業で学んだ要領で読み進めてください。第12課まで学べば、中級の基礎までマスターできます（特に敬語の使用法）。なお、講義で学んだ知識を生かし、家庭・地域・社会などで繰り返し実践し、経験を重ねていくと次第に話せるようになってきます。※沖縄語の現状については、沖縄科目群「沖縄の社会」（後期）でも学べます。
-------	---

科目基本情報	科目名 沖縄の言語	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -仲原 穰	前期	火 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業終了後に教室で受け付けるほか、Teamsの個人用チャットでも質問に答えます。	

学びの準備	ねらい 奄美・沖縄では現在も高年層を中心に伝統的なことば（＝琉球語）が使われていますが、若年層は高年層が使う琉球語が理解できず、中年層も琉球語のみで会話できる人はほとんどいません。このままでは、近い将来、琉球語が失われてしまいます。この講義では琉球語の基礎を学び、家庭や地域・社会で学ぶための足がかりにするねらいがあります。	メッセージ 講義が半期と限られているため、琉球語すべてについて詳しくとりあげることができません。3回目以降は「沖縄語」を中心に講義を進めます。講義ではこのほかに琉球語と日本語、現代日本語諸方言との関わり、沖縄のわらべうた・民謡・ことわざ等も取り扱う予定です。
	到達目標 この授業の到達目標は以下の3点です。①まず、沖縄語を母語とする話者（高年層）の話すことばを5割程度理解できるようになることです。講義を毎回受講し、事前・事後学習をきちんと行えば、受講前には理解できなかった高年層のことばを受講後にはある程度理解できるようになります。②琉球語についての概略について他者へ説明できるようになることです。③高年層と簡単な会話をおこなえるようになることです。講義では単語から句へ、句から短い文へと学びを進めます。講義では、高年層との会話で用いることができる表現も学びます。※なお、対面授業が可能な場合は①の理解度を6割程度に上げ、授業計画を教科書の6課まで進めます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの確認／琉球語とは一名称・範囲・下位区分・現状—／世界の危機言語のとりくみ	シラバスや配布資料をよく読むこと
	2	琉球語はどこから来たのか？—系統と借用語など—／挨拶ことば	配布資料で琉球語の概説を理解する
	3	ハ行音の歴史—日本語と琉球語—／琉球諸語の多様性	練習問題（宿題）／テキスト1課
	4	三母音の原則／連母音の融合	練習問題（宿題）／テキスト1課
	5	子音の口蓋化①②（三母音の原則／連母音の融合の残り）	練習問題（宿題）／テキスト1課
	6	子音の口蓋化③／「～が」の使い分け／指示語	練習問題（宿題）／テキスト2課
	7	1拍語の特徴／サ形容詞の終止形・連体形・ヌ形	練習問題（宿題）／テキスト2課
	8	動詞の終止形／動詞の否定形・命令形・禁止形	練習問題（宿題）／テキスト3課
	9	ラ行動詞の禁止形／語中・語尾の「～り」	練習問題（宿題）／テキスト3課
	10	ア行（イ・ウ）とヤ行（エイ）・ワ行（ウウ）の区別／「～ヤ」の融合	練習問題（宿題）／テキスト3課
	11	動詞の終止形・連体形の違い／沖縄語の係り結び／「～を」	練習問題（宿題）／テキスト4課
	12	これまでのまとめ／「～に」／動詞の志向形	練習問題（宿題）／テキスト4課
	13	疑問文の作り方／声門閉鎖音の特徴	練習問題（宿題）／テキスト4課
	14	awaはaa／丁寧な言い方（名詞文・形容詞文）	練習問題（宿題）／テキスト5課
	15	動詞の連用形／尾略形	練習問題（宿題）／テキスト5課
16	期末試験（※状況に応じて遠隔で実施する場合もあるが、対面で実施する予定）		

実践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】『沖縄語の入門（CD付改訂版）—たのしいウチナーグチー—』西岡敏・仲原穰[著]、中島由美・伊狩典子[協力]（白水社、2006[2000]年） 【参考文献】『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』内間直仁・野原三義編著（研究社、2006年）／『沖縄語辞典』国立国語研究所編（財務省[大蔵省]印刷局、2001[1963]年）／『初級 沖縄語』花園悟[著]、国吉朝政[協力]、西岡敏・仲原穰[監修]（研究社、2020年）
----	---

学びの手立て	この講義は半期で沖縄の言語の基礎について学びます（外国語など他の語学は週2回）。1回の講義で多くのことを学び、覚えることとなります。欠席すると講義についていけなくなる可能性が高いので、なるべく休まないでください。高年層のことばは若年層が使うことばとかなり異なります。よく耳にするから簡単だろう、勉強しなくても試験は何とかなるだろうなどとあなどることなく、「第2外国語を習得する」ぐらいの気持ちで取り組んでください。事後・事前学習（①配布されたプリントや教科書を読み返し、練習問題を解くなどの取り組み。②琉球語を話す人々の使用する伝統的なことばに常に興味を持ち、講義内容との違いについて考える、等）を行うと到達目標に近づきます。毎回配布するレジュメは書き込みしながら学ぶために作成したものです。適宜書き込みながら授業を聞かないと授業について行けなくなる可能性もあります。
--------	--

評価	期末試験（75%）＋授業のまとめとコメントの提出（Googleフォームで期限内に提出）（25%）によって評価します。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目：「琉球語会話Ⅱ」（日本文化学科） (2)次のステージ：講義終了後は教科書の残りの部分を授業で学んだ要領で読み進めてください。第12課まで学べば、中級の基礎までマスターできます（特に敬語の使用法）。なお、講義で学んだ知識を生かし、家庭・地域・社会などで繰り返し実践し、経験を重ねていくと次第に話せるようになってきます。※沖縄語の現状については、沖縄科目群「沖縄の社会」（後期）でも学べます。
-------	---

※ポリシーとの関連性

沖縄を深く知る教養の一つとして、沖縄の考古学に関する知識を得るための科目と位置付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の考古学	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>考古学は発掘調査を行い、土に埋もれた歴史を掘り起こす学問である。授業では、沖縄を中心とする琉球列島における発掘調査の成果を中心に紹介し、そこからわかる沖縄の歴史について解説する。考古学の学問的特質について理解し、遺跡をとおして歴史を学ぶ。</p>	<p>【実務経験】市町村行政で実際に遺跡調査を担当していた実務経験を活かして、土に埋もれた沖縄の歴史について、年代を追って順に解説します。</p>
到達目標	<p>沖縄の考古学を理解し、自分の言葉で説明できる。 地域の遺跡について理解を深めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	考古学ってどんな学問？	資料を配布するので読むこと
	3	蒼海に連なる島々	テキストを事前に読んでおくこと
	4	旧石器時代の琉球列島	テキストを事前に読んでおくこと
	5	奄美・沖縄諸島の貝塚文化1（縄文時代並行期）	テキストを事前に読んでおくこと
	6	奄美・沖縄諸島の貝塚文化2（弥生時代～古代並行期）	テキストを事前に読んでおくこと
	7	宮古・八重山の新石器文化	テキストを事前に読んでおくこと
8	琉球列島における農耕のはじまり	テキストを事前に読んでおくこと	
9	グスク築城と集落の人びと	テキストを事前に読んでおくこと	
10	海洋貿易国家としての繁栄	テキストを事前に読んでおくこと	
11	出土銭貨のものがたり	テキストを事前に読んでおくこと	
12	近世琉球の社会	テキストを事前に読んでおくこと	
13	海底に沈む歴史の欠片	テキストを事前に読んでおくこと	
14	琉球王国以後の沖縄	テキストを事前に読んでおくこと	
15	沖縄戦を実物で継承する	テキストを事前に読んでおくこと	
16	課題提出	復習を怠らないこと	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストはとして、『琉球の考古学』2022年（敬文舎）を用いるので、3回目の講義までには各自用意すること。</p>		
学びの手立て	<p>本講義の出欠は、授業終わりにGoogleフォームを用いて行う。各自携帯等でアクセスして行うため、これに対応するように準備すること。出席確認はこのGoogleフォームを用いた小テストで毎回厳格に行う。テレビや新聞記事、インターネット等で紹介される遺跡調査に関するニュースなどに関心をもつこと。</p>		
評価	<p>小テスト40%、期末課題40%、平常点20%。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>考古学研究によって得られた研究成果を広く教養として身につける。 関連科目としては「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の地理」「沖縄戦」。上位科目としては「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

沖縄を深く知る教養の一つとして、沖縄に関する知識を習得するための科目と位置付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の考古学	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@oki.u.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>考古学は発掘調査を行い、土に埋もれた歴史を掘り起こす学問である。授業では、沖縄を中心とする琉球列島における発掘調査の成果を紹介し、そこからわかる沖縄の歴史について解説する。考古学の学問的特質について理解し、遺跡をとおして歴史を学ぶ。</p>	<p>【実務経験】市町村行政で実際に遺跡調査を担当していた実務経験を活かして、土に埋もれた沖縄の歴史について、年代を追って順に解説します。</p>
到達目標	<p>沖縄の考古学を理解し、自分の言葉で説明できる。 地域の遺跡について理解を深めることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	考古学ってどんな学問？	関連記事を配布するので読むこと
	3	蒼海に連なる島々	テキストを事前に読んでおくこと
	4	旧石器時代の琉球列島	テキストを事前に読んでおくこと
	5	奄美・沖縄諸島の貝塚文化1（縄文時代並行期）	テキストを事前に読んでおくこと
	6	奄美・沖縄諸島の貝塚文化2（弥生～奈良・平安時代並行期）	テキストを事前に読んでおくこと
	7	宮古・八重山の新石器時代	テキストを事前に読んでおくこと
8	琉球列島における農耕のはじまり	テキストを事前に読んでおくこと	
9	グスクの築城と集落の人びと	テキストを事前に読んでおくこと	
10	海洋貿易国家としての繁栄	テキストを事前に読んでおくこと	
11	出土銭貨のものがたり	テキストを事前に読んでおくこと	
12	近世琉球の社会	テキストを事前に読んでおくこと	
13	海底に沈む歴史の欠片	テキストを事前に読んでおくこと	
14	琉球王国以後の沖縄	テキストを事前に読んでおくこと	
15	沖縄戦を実物で継承する	テキストを事前に読んでおくこと	
16	課題提出	課題に取り組むこと	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストはとして、『琉球の考古学』2022年（敬文舎）を用いるので、3回目の講義までには各自用意すること。</p>		
学びの手立て	<p>本講義の出欠は、授業終わりにGoogleフォームを用いて行う。各自携帯等でアクセスして行うため、これに対応するように準備すること。出席確認はこのGoogleフォームを用いた小テストで毎回厳格に行う。テレビや新聞記事、インターネット等で紹介される遺跡調査に関するニュースなどに関心をもつこと。</p>		
評価	<p>小テスト40%、期末課題40%、平常点20%。 ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>考古学研究によって得られた研究成果を広く教養として身につける。 関連科目としては「沖縄の歴史Ⅰ・Ⅱ」「沖縄の地理」「沖縄戦」。上位科目としては「南島考古学Ⅰ・Ⅱ」「南島先史学Ⅰ・Ⅱ」</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

自分の生活する「地域」である「沖縄」の特色ある自然環境について、それを理解するための一般的知識を含めて理解する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の自然環境 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-廣瀬 孝	1年	ポータルでメールする。 または、thiro@grs.u-ryukyu.ac.jp まで	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄は、亜熱帯の環境、サンゴ礁の海、といった非常に特色のある自然環境を持っている。この亜熱帯島嶼環境下にある沖縄の自然環境について、特に自然地理的事象を中心に、それを理解するために必要な周辺知識を織り交ぜ、いろいろな話題を取り上げて話をする。この講義を学ぶことで、地元地域「沖縄」の理解を深めるとともに、ほかの地域との共通性や特異性を見出せるようになる。</p>	<p>この講義を学ぶことで、「地域」の自然環境に関心を持つとともに、旅先やテレビなどのメディアで同様の事象に出会った時に気付けるように、常日頃から比較する目でものごとを見るようにしましょう。また、環境問題など、自然環境と私たち人間とのより良い関係性を考えましょう。</p>

学びの準備	到達目標
	<p>1. 亜熱帯島嶼沖縄の自然環境の特徴について、まずは、関心を持つこと。 2. その特徴について、とらえ方（どんな特徴なのか、また、なぜそうなるのか）を理解する。 3. 講義で取り上げなかった場所でも、同じような特徴を持った場所を訪れた時に、その特徴に気づけるようになるよう理解する。 4. これらを達成することで、地元地域「沖縄」の自然環境への理解とともに、ものごとを比較の目で関心を持つてみるができるようになるとともに、人間生活と自然環境との関係性についても考慮することができるようになる。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	学びの手立てを参考にしてください
	2	沖縄の気候の特徴 ー沖縄は亜熱帯か？ その1	学びの手立てを参考にしてください
	3	〃 その2	学びの手立てを参考にしてください
	4	〃 その3	学びの手立てを参考にしてください
	5	島をとりかこむサンゴ礁 ーサンゴ礁とそのなりたち	学びの手立てを参考にしてください
	6	〃 ーサンゴ礁の発達	学びの手立てを参考にしてください
	7	〃 ー沖縄のサンゴ礁 その1	学びの手立てを参考にしてください
	8	〃 ー沖縄のサンゴ礁 その2	学びの手立てを参考にしてください
	9	世界でも珍しい特徴を持った島（南北大東島）の話	学びの手立てを参考にしてください
	10	沖縄に分布する石灰岩とその作る地形 ー石灰岩とカルスト その1	学びの手立てを参考にしてください
	11	〃 ー石灰岩とカルスト その2	学びの手立てを参考にしてください
	12	〃 ー円錐カルスト	学びの手立てを参考にしてください
	13	サンゴ礁地域の地域特性とその変容 その1	学びの手立てを参考にしてください
	14	〃 その2	学びの手立てを参考にしてください
15	まとめ	学びの手立てを参考にしてください	
16	期末試験もしくは講義を振り返るまとめの課題レポート		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは指定しないが、以下の図書を参考文献として挙げる。 目崎茂和：「琉球弧をさぐる」 あき書房 高橋達郎：「サンゴ礁」古今書院 サンゴ礁地域研究グループ：「熱い自然」, 「熱い心の島」古今書院 河名俊男：「琉球列島の地形」新星図書出版 野澤秀樹・堂前亮平・手塚 章 編：「日本の地誌10 九州・沖縄」朝倉書店</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>原則として対面授業を予定します（詳細はポータルの授業連絡で行います）。その場合、講義時間までに講義資料を提供するので、それを講義時間中にみられるようにしてきてください。対面授業出席者は、講義終了時にフィードバックペーパーを提出します。やむを得ず欠席した場合は、講義資料で学習して、それに関する課題レポートを期日までに提出する。 また、事後学習的なまとめと、事前学習的なものを調べるものの両方を適宜指示します。 わからないことは調べ、できる限り早く自分なりの答えを用意する。調べながら見つかった関連事項についても、興味を持って調べることが望ましい。授業に関連するような事柄に、実際の場所やメディア等で出会ったときに、気付くことができるよう、日頃から関心を持つてものごとを捉えること。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>1. 毎時間のフィードバックペーパーもしくは課題レポート（授業の自分なりのまとめなど） 約75% 15回の課題内、11回以上を提出していない場合は、原則として単位はありません。 2. 期末試験もしくは講義全体を振り返るまとめレポート。 約25%</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この講義を地元地域である沖縄の自然環境を理解するための取りかかりとして、自分の将来設計や興味関心に合わせて、科目を選択し勉強してください。また、疑問に思ったことは、わからないままにせず、なるべく速やかに自分なりの理解をするように心がけてください。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（地形、地質）およびそれに関連した災害について。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の自然環境 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 康志	1年	授業終了後教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（地形、地質）について習得する。さらにこれらに関連した沖縄の災害についての基礎的知識を学ぶ。講義前に講義で使用するデジタルデータを公開しますので、webサイトや参考書を利用して、用語などの下調べを行うこと。	メッセージ 沖縄における地球科学および、沖縄で発生する可能性のある災害について学ぼう。
	到達目標 地球科学（地形、地質）やそれらによる自然災害について習得し、沖縄の自然環境を考える基礎知識を習得する。	

学びの準備	到達目標 地球科学（地形、地質）やそれらによる自然災害について習得し、沖縄の自然環境を考える基礎知識を習得する。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等) 講義について重要説明、必ず受講すること
	2	琉球列島の地学的位置
	3	プレートテクトニクスの基礎知識
	4	プレートテクトニクスと火山
	5	九州・琉球列島の巨大噴火
	6	プレートテクトニクスと大東島の成因
	7	付加体と琉球列島の地質
	8	地震の基礎知識
	9	地震性地殻変動と離水サンゴ礁
	10	津波の基礎知識と沖縄での遠地津波
	11	東日本大震災の大津波から津波被害を考える
	12	八重山明和大津波と歴史津波
	13	直下型地震と活断層の基礎知識
	14	活断層調査と沖縄の活断層
	15	避難行動を考える『釜石の奇跡』
16	期末試験	
		時間外学習の内容
		ガイダンス資料
		第1回講義デジタル資料
		第2回講義デジタル資料
		第3回講義デジタル資料
		第4回講義デジタル資料
		第5回講義デジタル資料
		第6回講義デジタル資料
		第7回講義デジタル資料
		第8回講義デジタル資料
		第9回講義デジタル資料
		第10回講義デジタル資料
		第11回講義デジタル資料
		第12回講義デジタル資料
		第13回講義デジタル資料
		第14回講義デジタル資料

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト 講義数日前に講義で使用するデジタルデータを公開します。（アドレスはガイダンスでお知らせします） 参考文献 日本の自然地域編 南の島々 岩波書店 九州の大地とともに 築地書館 沖縄県史 県土のすがた 沖縄県教育委員会 高校教科書『地学基礎』出版社は問いません。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 自然科学系の一般教養科目や、沖縄科目群の他の講義を合わせて受講してほしい。
-------	---

学びの実践	評価 講義による基礎知識を習得段階を確認する期末試験を行います。試験100%で成績を決定する。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の自然環境Ⅱ、および沖縄科目群の他の講義も合わせて受講してほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名 沖縄の自然環境Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -廣瀬 孝	後期	火 1	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	ポータルでメールする。 または、thiro@grs.u-ryukyu.ac.jp まで	

学びの準備	ねらい 沖縄は、亜熱帯の環境、サンゴ礁の海、といった非常に特色のある自然環境を持っている。この亜熱帯島嶼環境下にある沖縄の自然環境について、特に自然地理学的事象を中心に、それを理解するために必要な周辺知識を織り交ぜ、いろいろな話題を取り上げて話をする。この講義を学ぶことで、地元地域「沖縄」の理解を深めるとともに、ほかの地域との共通性や特異性を見出せるようになる。	メッセージ この講義を学ぶことで、「地域」の自然環境に関心を持つとともに、旅先やテレビなどのメディアで同様の事象に出会った時に気付けるように、常日頃から比較する目でものごとを見るようにしましょう。また、環境問題など、自然環境と私たち人間とのより良い関係性を考えましょう。
	到達目標 1. 亜熱帯島嶼沖縄の自然環境の特徴について、まずは、関心を持つこと。 2. その特徴について、とらえ方（どんな特徴なのか、また、なぜそうなるのか）を理解する。 3. 講義で取り上げなかった場所でも、同じような特徴を持った場所を訪れた時に、その特徴に気づけるようになるよう理解する。 4. これらを達成することで、地元地域「沖縄」の自然環境への理解とともに、ものごとを比較の目で関心を持ってみるができるようになるとともに、人間生活と自然環境との関係性についても考慮することができるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. 亜熱帯島嶼沖縄の自然環境の特徴について、まずは、関心を持つこと。 2. その特徴について、とらえ方（どんな特徴なのか、また、なぜそうなるのか）を理解する。 3. 講義で取り上げなかった場所でも、同じような特徴を持った場所を訪れた時に、その特徴に気づけるようになるよう理解する。 4. これらを達成することで、地元地域「沖縄」の自然環境への理解とともに、ものごとを比較の目で関心を持ってみるができるようになるとともに、人間生活と自然環境との関係性についても考慮することができるようになる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	学びの手立てを参考にしてください
	2	琉球列島の水文環境 一水文学と水収支	学びの手立てを参考にしてください
	3	〃 一沖縄の水資源と水利用	学びの手立てを参考にしてください
	4	沖縄の土壌 一岩石の風化と赤い土 その1	学びの手立てを参考にしてください
	5	琉球列島の水文環境 一石灰岩地域の水の流れと水利用	学びの手立てを参考にしてください
	6	〃 一地下ダム	学びの手立てを参考にしてください
	7	沖縄の土壌 一岩石の風化と赤い土 その2	学びの手立てを参考にしてください
	8	地形改変（開発）と赤土流出 その1	学びの手立てを参考にしてください
	9	〃 その2	学びの手立てを参考にしてください
	10	〃 その3	学びの手立てを参考にしてください
	11	沖縄の海岸 一砂浜	学びの手立てを参考にしてください
	12	〃 一岩石海岸とノッチ	学びの手立てを参考にしてください
	13	〃 一段丘	学びの手立てを参考にしてください
	14	沖縄の島分類とその特徴 一高島と低島 その1	学びの手立てを参考にしてください
	15	〃 その2 および まとめ	学びの手立てを参考にしてください
16	期末テストもしくは講義を振り返るまとめの課題		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しないが、以下の図書を参考文献として挙げる。 目崎茂和：「琉球弧をさぐる」 あき書房 高橋達郎：「サンゴ礁」古今書院 サンゴ礁地域研究グループ：「熱い自然」 「熱い心の島」古今書院 河名俊男：「琉球列島の地形」新星図書出版 野澤秀樹・堂前亮平・手塚 章 編：「日本の地誌10 九州・沖縄」朝倉書店
-------	--

学びの実践	学びの手立て 原則として対面授業を予定します（詳細はポータルの授業連絡で行います）。その場合、講義時間までに講義資料を提供するので、それを講義時間中にみられるようにしてきてください。対面授業出席者は、講義終了時にフィードバックペーパーを提出します。やむを得ず欠席した場合は、講義資料で学習して、それに関する課題レポートを期日までに提出する。 また、事後学習的なまとめと、事前学習的なものを調べるものの両方を適宜指示します。 わからないことは調べ、できる限り早く自分なりの答えを用意する。調べながら見つかった関連事項についても、興味を持って調べることを望ましい。授業に関連するような事柄に、実際の場所やメディア等で出会ったときに、気付くことが出来るよう、日頃から関心を持ってものごとを捉えること。
-------	--

学びの実践	評価 1. 毎時間のフィードバックペーパーもしくは課題レポート（授業の自分なりのまとめなど） 約75% 15回の課題内、11回以上を提出していない場合は、原則として単位はありません。 2. 期末試験もしくは講義全体を振り返るまとめレポート。 約25%
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 この講義を地元地域である沖縄の自然環境を理解するための取りかかりとして、自分の将来設計や興味関心に合わせて、科目を選択し勉強してください。また、疑問に思ったことは、わからないままにせず、なるべく速やかに自分なりの理解をするように心がけてください。
-------	--



※ポリシーとの関連性 沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（地形、地質）およびそれに関連した災害について。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の自然環境Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 康志	1年	授業終了後教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄科目群として、沖縄の自然環境、特に地球科学（気候、地形、土壌）について習得する。さらにこれらに関連した沖縄の災害や特徴的な自然環境についての基礎的知識を学ぶ。講義数日前に講義で使用するデジタルデータを公開しますので、webサイトや参考書を利用して、用語などの下調べを行うこと。	メッセージ 沖縄における自然環境について学ぼう。
	到達目標 地球科学（気候、地形、土壌）やそれらによる自然災害、特徴的な沖縄の環境について習得し、沖縄の自然環境を考える基礎知識を習得する。成績評価の方法は、期末試験により判断する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等)	講義について重要な説明、必ず受講すること	資料をよく読むこと
	2	沖縄の島々と気候		第1回講義デジタル資料
	3	気候・気象の基礎知識（1）		第2回講義デジタル資料
	4	気候・気象の基礎知識（2）		第3回講義デジタル資料
	5	コリオリの力と気象現象		第4回講義デジタル資料
	6	台風と被害		第5回講義デジタル資料
	7	気候変動と極端化する気象		第6回講義デジタル資料
	8	河川地形と洪水		第7回講義デジタル資料
9	沖縄の河川と内水氾濫		第8回講義デジタル資料	
10	土石流		第9回講義デジタル資料	
11	斜面崩壊		第10回講義デジタル資料	
12	沖縄の地形地質と地すべり		第11回講義デジタル資料	
13	沖縄の石灰岩と地下水		第12回講義デジタル資料	
14	丘陵の地形改変と災害		第13回講義デジタル資料	
15	沖積層と沖縄の埋立地		第14回講義デジタル資料	
16	期末試験			
	テキスト・参考文献・資料など テキスト 講義数日前に講義で使用するデジタルデータを公開します。（アドレスはガイダンスでお知らせします） 参考文献 日本の自然地域編 南の島々 岩波書店 九州の大地とともに 築地書館 沖縄県史 県土のすがた 沖縄県教育委員会 高校教科書『地学基礎』			
	学びの手立て 自然科学系の一般教養科目や、沖縄科目群の他の講義を合わせて受講してほしい。			
	評価 講義による基礎知識を習得段階を確認する試験を学期末に行う。試験結果100%で成績を決定する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の自然環境Ⅰ、および沖縄科目群の他の講義も合わせて受講してほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の社会	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-知念 ウシ	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>昨今、「しまくとぅばの日」が県議会の条例によって定められるなど、琉球諸語の復興運動がさかんになっています。「沖縄社会が琉球諸語を取り戻す」という課題の歴史的な文脈とその持つべき方向性を検討することによって、沖縄の社会について反/脱植民地主義の観点から考えます。</p>	<p>現在の沖縄社会では、日本語をあたり前のように話しますが、このことは本当に当然の、自然なことなのでしょうか。そのことへの違和感があるという学生も、そんなことを考えたこともないという学生も、また、特に自分の祖父母とそれぞれの琉球語で話せるようになりたいという学生の受講を歓迎します。授業の内容と回の順番は適宜変更もありえます。</p>
到達目標	<p>沖縄で日本語を話すのはあたり前ではない、ということがわかるかもしれません。植民地主義というものへの理解が深まるかもしれません。自分の祖先の言葉が話したくなるかもしれません。沖縄の問題は、沖縄だけではなく、世界の植民地の、普遍的な問題だとわかるかもしれません。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス なぜ言語問題を通して沖縄社会を考えるのか	配布資料から言語問題を概観する
	2	沖縄の未来をつくる仲間と出会うワークショップ	仲間をつくる
	3	「県民意識調査」から何がわかるか グループディスカッション	現状認識を深める
	4	国連（国際人権法）による沖縄の言語問題の位置付け	資料の再読
	5	沖縄は「植民地」か グループディカッション	自分の意見をまとめる
	6	フランツ・ファノン「黒人と言語」（1）	テキストの読み込み
	7	フランツ・ファノン「黒人と言語」（2） 動画から現代沖縄とファノンを考える	沖縄との比較を考える
	8	沖縄語普及協議会との交流	琉球語を学ぶ
	9	しまくとぅば検定（9級）受検	琉球語を学ぶ
	10	グギ・ワ・ジオンゴ「アフリカ文学の言語」（1）	テキストの読み込み
	11	グギ・ワ・ジオンゴ「アフリカ文学の言語」（2）	沖縄との比較を考える
	12	沖縄戦と沖縄の言語問題	テキストの読み込み
	13	言語問題から見た琉球近現代史	テキストの理解
14	野村浩也「無意識の植民地主義」「文化の爆弾」	配布資料の読み込み	
15	アビ・ドゥベ「ヒンドゥー語翻訳事業」	これまでの資料の復習	
16	これまでのまとめ グループディスカッション	最終課題の完成	
テキスト・参考文献・資料など	<p>1、資料・論文は配布します。2、参考文献は以下のとおりです。グギ・ワ・ジオンゴ『精神の非植民地化 アフリカ文学における言語の政治学』第三書館、2010年。フランツ・ファノン『黒い皮膚・白い仮面』みすず書房。野村浩也『無意識の植民地主義 日本人の米軍基地と沖縄人』御茶の水書房、2005年。知念ウシ『ウシがゆく』沖縄タイムス社、2010年。</p>		
学びの手立て	<p>授業で覚える琉歌、黄金言葉は暗唱できるようにしてください。家族・親戚・近所の方々からそれぞれの琉球諸語を学んでください。沖縄の新聞の「シマクトゥバ関連記事」は必読です。学内外の「シマクトゥバ関連」の講演会、研究会などのイベントにも積極的に参加してください。</p>		
評価	<p>校外活動も含めて授業への積極的参加態度40%、提出物（冬休みの課題、最終課題）60%で評価します。。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>新型コロナウイルス感染防止に気をつけながら、ご自分の親や祖父母、近所の方から、それぞれの琉球諸語を学んでください。琉球諸語や沖縄社会に関する他の授業をどんどん受講してください。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 「沖縄の社会」の社会変動と文化構造を知ることにより、現代社会の問題を解くヒントを得る。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の社会	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	1年	ガイダンスの時に説明します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	私たちが自明だと思っている「沖縄らしさ」を表象するものが、近代化の過程によってつくられた比較的新しい出来事であることを確認し、そのような作業により沖縄の社会の可能性を発見していく。	過去は新しい！未来は懐かしい！

到達目標	沖縄の社会の表象や出来事を構造的な視点で語れるようになる。
------	-------------------------------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、沖縄の社会を考察する視点	シラバスをよく読んでください
	2	観察するものを観察する	講義テキストを熟読すること
	3	沖縄の原風景とシマの美意識	講義テキストを熟読すること
	4	沖縄の地域の多様性	講義テキストを熟読すること
	5	浜降りと雛祭り	講義テキストを熟読すること
	6	沖縄の近代化における三つの衝撃	講義テキストを熟読すること
	7	野生の思考が息づく沖縄	講義テキストを熟読すること
	8	嘯む、嘯まない～祭りはなぜ必要か？	講義テキストを熟読すること
	9	エイサーは近代に誕生した！	講義テキストを熟読すること
	10	戦後の沖縄の生活の諸相	講義テキストを熟読すること
	11	生態系とシマおこし	講義テキストを熟読すること
	12	リゾートとリゾートム	講義テキストを熟読すること
	13	海浜はパブリックである～プライベートビーチ？	講義テキストを熟読すること
14	満洲開拓団とシベリア抑留	講義テキストを熟読すること	
15	石垣島の住民投票問題～民主主義とは何か？	講義テキストを熟読すること	
16	レポート課題	半期間の総復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など	講義テキストはGLEXAから送信します。講義の理論となっている主な参考文献はクロード・レヴィ=ストロース『野生の思考』（1976年、みすず書房）です。	
	学びの手立て	「大きな物語」は終焉したという前提で講義は展開します。毎回の受講の積み重ねが力になります。なお、授業計画は学生のコメントの内容から差し替えたり順番が変更する的可能性もあります。その場合はポータル授業連絡でお知らせします。	
	評価	毎回の講義において課題を与える。課題はGLEXAから提出すること。そのことが授業参加度になる。授業参加度（80％）と16回目の課題（20％）を基本として評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 参考文献を一冊でも読破することによって次のステージにいけます。挑戦してみてください。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「沖縄の社会」の社会変動と文化構造を知ることにより、現代社会の問題を解くヒントを得る。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の社会	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志堅 邦子	1年	ガイダンスの時に説明します。	

学びの準備	ねらい 私たちが自明だと思っている「沖縄らしさ」を表象するものが、近代化の過程によってつくられた比較的新しい出来事であることを確認し、そのような作業により沖縄の社会の可能性を発見していく。	メッセージ 過去は新しい！未来は懐かしい！
	到達目標 沖縄の社会の表象や出来事を構造的な視点で語れるようになる。	

学びの準備	到達目標 沖縄の社会の表象や出来事を構造的な視点で語れるようになる。
-------	---------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、沖縄の社会を考察する視点	シラバスをよく読んでください
	2	観察するものを観察する	講義テキストを熟読すること
	3	沖縄の原風景とシマの美意識	講義テキストを熟読すること
	4	沖縄の地域の多様性	講義テキストを熟読すること
	5	浜降りと雛祭り	講義テキストを熟読すること
	6	沖縄における近代化の三つの衝撃	講義テキストを熟読すること
	7	野生の思考が息づく沖縄	講義テキストを熟読すること
	8	嘯む、嘯まない～祭りはなぜ必要か？	講義テキストを熟読すること
9	エイサーは近代に誕生した！	講義テキストを熟読すること	
10	戦後の沖縄の生活の諸相	講義テキストを熟読すること	
11	生態系とシマおこし	講義テキストを熟読すること	
12	リゾートとリゾートム	講義テキストを熟読すること	
13	海浜はパブリックである～プライベートビーチ？	講義テキストを熟読すること	
14	満洲開拓団とシベリア抑留	講義テキストを熟読すること	
15	石垣島の住民投票問題～民主主義とは何か？	講義テキストを熟読すること	
16	レポート課題	半期間の総復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義テキストはGLEXAから送信します。講義の理論となっている主な参考文献はクロード・レヴィ＝ストロース『野生の思考』（1976年、みすず書房）です。		
学びの手立て	「大きな物語」は終焉したという前提で講義は展開します。毎回の受講の積み重ねが力になります。なお、授業計画は学生のコメントの内容から差し替えたり順番が変更する可能性もあります。その場合はポータル授業連絡でお知らせします。		
評価	毎回の講義において課題を与える。課題はGLEXAから提出すること。そのことが授業参加度になる。授業参加度（80％）と16回目の課題（20％）を基本として評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 参考文献を一冊でも読破することによって次のステージにいけます。挑戦してみてください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

「沖縄社会」の構造と変動を理解する上で、社会学的なアプローチの視点や方法を習得する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の社会	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>当講義で取り扱う「沖縄社会」とは、沖縄を介して形成される社会関係やネットワーク、またそのような関係を規定する社会の構造そのものを指している。「沖縄社会」のありよう、その構造と変動を、社会学等の多角的な視点でとらえ、理解することをねらいとしている。とくに、前半は人種差別論の視点から、後半は現代文化論の視点から考察する。</p>	<p>当講義では社会学の基本的な視点を取り入れるので、ミクロな視点に基づいて身近な素材を取り上げていきます。沖縄社会を構成するあなた自身を理解するための手がかりとして、自分の足もとの沖縄社会を理解していきましょう。</p>
到達目標	沖縄社会のありよう、その構造と変動について社会学的な視点とともに習得すること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本の近代化と沖縄社会の諸相① ー「人類館事件」がもたらしたもの	近代国家と博覧会の意味を調べる
	2	日本の近代化と沖縄社会の諸相② ー沖縄の労働力流出と大都市集住地域の形成	差別と生活改善運動について調べる
	3	米軍統治下における沖縄社会の諸相① ー基地移設・建設、基地労働から見える人種化	軍事基地よる社会的不均衡を考える
	4	米軍統治下における沖縄社会の諸相② ー那覇都市圏の社会変動から考える	戦後の「まち」の成り立ちを調べる
	5	米軍統治下における沖縄社会の諸相③ ージェンダー化された都市としてのコザ	植民地主義と性差別主義を考える
	6	軍統治下における沖縄社会の諸相④ ー「コザ騒動」という回路が開くもの	コザの人種問題について調べる
	7	<前半まとめ>人種差別論から考える沖縄社会 ーフランツ・ファノンから考える沖縄 I	「乳白化」の視点から沖縄を考える
	8	沖縄社会を考えるミニ課題の公表	ふりかえりと課題内容の告知
	9	現代沖縄社会の諸相① ー若者文化論から考える沖縄	戦後の文化表象の連続性を考える
	10	現代沖縄社会の諸相② ー抑圧から生まれる文化という視点	戦後の文化的な断層について考える
	11	現代沖縄社会の諸相③ ー沖縄における生活世界の光と陰	相互主義から見えないものを考える
	12	現代沖縄社会の諸相④ ー可視化されにくい若者の貧困と苦境	沖縄の若者の貧困について調べる
	13	現代沖縄社会の諸相⑤ ー無印化する「ショッピングモール社会」沖縄	身近な無印都市のありようを調べる
14	現代沖縄社会の諸相⑥ ーオキナワン・チルダイとしての「気散じ」「身散じ」	無印都市の身体感覚の特徴を考える	
15	<後半まとめ>人種差別論から考える沖縄社会 ーフランツ・ファノンから考える沖縄 II	クレオール視点から沖縄を考える	
16	予備日	期末課題作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。	
学びの手立て	<p>リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」(ジェネリック・スキル)を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」(高度かつ適切な情報収集と処理能力)となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。</p>		
評価	<p>受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「沖縄社会を考えるミニ課題」の提出と内容評価が30点、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：沖縄科目群の他の科目 各学科専門教育の予備知識として</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の宗教	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-加治 順人	1年	授業前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄で信仰されているさまざまな宗教・信仰について広く全体的な知識を獲得する。単なる教養や知識としてではなく、現在もお私たちの社会や文化に深く根差している価値観や慣習として理解を深めることで、各々の専門分野や職業生活を豊かなものにしてほしい。また、授業で学んだことを身近な事例と関連づけて掘り下げ、レポートの形で考察をまとめてもらう。</p>	<p>講師は沖縄県護国神社の神職を本業とし、その経験をもとに具体的な事例を盛り込んで、沖縄の民間信仰（マブイ、ユタ、ノロ、火の神、位牌）や外来宗教（仏教、神道、道教、キリスト教、新宗教）などについて歴史・理論・実践をわかりやすく解説します。</p>
到達目標	<p>沖縄に暮らす者にとって身近な信仰や宗教のありようを知ることで、沖縄の文化や歴史への理解を深め、これからの生活にいかすことができるようになる。それは単に「伝統」や「慣習」なるものの「正しさ」を知って従うことを意味するわけではない。何が宗教や信仰や文化の「本質」であるかを自分の頭で理解して、自分にとって何が必要で何が不要か、何が自分を支えるのか、何が自分を呪縛し脅かすものかを判断し、取捨選択できる賢い社会人になることが長期的な目標である。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	沖縄固有の信仰（セヂとマブイ）	指定した資料を事前に読む
3	沖縄固有の信仰（ユタ）	同上	
4	沖縄固有の信仰（ノロ）	同上	
5	沖縄固有の信仰（火の神）	同上	
6	沖縄固有の信仰（位牌）	同上	
7	沖縄固有の信仰（墓と葬制）	同上	
8	沖縄固有の信仰（御嶽信仰）	同上	
9	沖縄固有の信仰（イザイホー）	同上	
10	沖縄の年中行事	同上	
11	外来宗教（仏教）	同上	
12	外来宗教（神道）	同上	
13	外来宗教（道教）	同上	
14	外来宗教（キリスト教）	同上	
15	外来宗教（新宗教）	同上	
16	まとめ	レポートを作成する	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは使用しない。参考文献を紹介することがある。</li> <li>・適宜プリント資料を配布する。</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私語厳禁。受講者が多い大教室の授業なので、授業の妨げになる私語は退席を求めます。</li> <li>・授業期間中に何度か小レポートを書いてもらいます。</li> <li>・配布資料には必ず目を通していき、紹介した文献もなるべく読んでもらいたい。</li> <li>・「沖縄の歴史」を事前に受講しておくことが望ましい。</li> <li>・社会文化学科（民俗学専攻）の学生は1年次に受講することが望ましい。</li> </ul>		
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学期末レポート（70%）</li> <li>2. 小レポート（30%）</li> <li>3. 出席点は原則として加味しないが、欠席が5回以上になると「不可」とする。</li> </ol>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として「沖縄の民俗」を受講することを勧めたい。宗教や信仰について、「伝統」や迷信に惑わされない判断力を身につけてもらいたい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の政治	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 修	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	主に戦後、沖縄がアメリカに統治されていた時代（1945～1972年）を扱います。さまざまな権利が制限される中で、沖縄住民が自治権の獲得や主席公選、施政権返還（日本復帰）を求めて行動した過程を学ぶことで、「沖縄の政治」について理解を深める。	18歳選挙権が認められました。「沖縄の政治」を通じて、民主主義の根幹ともいえる政治に関心を持ってもらい、選挙を身近に感じてほしい。
到達目標	本講義は毎回、新聞、外交文書などの一次資料を用意します。これらの資料を読み込んで、政治に関心を持つことを目標としています。毎回資料を読み込み感想を提出するので、短時間で自分の考えがまとめられるようになります。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス／新聞を読む	テキスト、新聞、資料の読み込み
	2	新聞を読む／個別テーマ：忘れられた島	同上
	3	新聞を読む／個別テーマ：屈辱の日	同上
	4	新聞を読む／個別テーマ：島ぐるみ闘争	同上
	5	新聞を読む／個別テーマ：祖国復帰協議会発足（宮森小ジョット機墜落）	同上
	6	新聞を読む／個別テーマ：2・1決議（キャラウェイ旋風）	同上
	7	新聞を読む／個別テーマ：佐藤首相来沖	同上
	8	新聞を読む／個別テーマ：教公2法	同上
	9	新聞を読む／個別テーマ：主席公選	同上
	10	新聞を読む／個別テーマ：2・4ゼネスト	同上
	11	新聞を読む／個別テーマ：コザ騒動	同上
	12	新聞を読む／個別テーマ：毒ガス移送（プロジェクト112）	同上
	13	新聞を読む／個別テーマ：国政参加	同上
14	新聞を読む／個別テーマ：「建議書」から日本復帰	同上	
15	新聞を読む／個別テーマ：沖国大ヘリ墜落	同上	
16	予備日	同上	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは『ドキュメント〈アメリカ世〉の沖縄』（岩波新書、2022年3月刊）。必ず購入してください。	
学びの手立て	授業の中で紹介します。主な参考文献は『一条の光 屋良朝苗日記』上下（琉球新報社）、『不屈 瀬長亀次郎日記』1部-3部（琉球新報社）、中野好夫・新崎盛暉著『沖縄戦後史』（岩波新書）、『沖縄県史 各論編7 現代』など。		
評価	毎回提出する感想をはじめ、課題、期末レポートで評価します。配分は感想60%（15回×4点）、新聞読む課題（10%）、期末レポート（30%）です。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「沖縄の基地問題」、「沖縄の歴史Ⅱ（近現代）」、「沖縄戦」、「政治・行政と報道」など。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の政治	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 修	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	主に戦後、沖縄がアメリカに統治されていた時代（1945～1972年）を扱います。さまざまな権利が制限される中で、沖縄住民が自治権の獲得や主席公選、施政権返還（日本復帰）を求めて行動した過程を学ぶことで、「沖縄の政治」について理解を深める。	18歳選挙権が認められました。「沖縄の政治」を通じて、民主主義の根幹ともいえる政治に関心を持もらい、選挙を身近に感じてほしい。

到達目標	本講義は毎回、新聞、映像、外交文書などの一次資料を用意します。これらの資料を読み込んで、政治に関心を持つことを目標としています。毎回資料を読み込み感想を提出するので、短時間で自分の考えがまとめられるようになります。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス／新聞を読む	テキスト、新聞、資料の読み込み
	2	新聞を読む／個別テーマ：忘れられた島	同上
	3	新聞を読む／個別テーマ：屈辱の日	同上
	4	新聞を読む／個別テーマ：島ぐるみ闘争	同上
	5	新聞を読む／個別テーマ：祖国復帰協議会発足（宮森小ジョット機墜落）	同上
	6	新聞を読む／個別テーマ：2.1決議（キャラウェイ旋風）	同上
	7	新聞を読む／個別テーマ：佐藤首相来沖	同上
	8	新聞を読む／個別テーマ：教公2法	同上
	9	新聞を読む／個別テーマ：主席公選	同上
	10	新聞を読む／個別テーマ：2・4ゼネスト	同上
	11	新聞を読む／個別テーマ：コザ騒動	同上
	12	新聞を読む／個別テーマ：毒ガス移送（プロジェクト112）	同上
	13	新聞を読む／個別テーマ：国政参加	同上
	14	新聞を読む／個別テーマ：「建議書」から日本復帰	同上
15	新聞を読む／個別テーマ：沖国大ヘリ墜落	同上	
16	予備日	同上	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは『ドキュメント〈アメリカ世〉の沖縄』（岩波新書、2022年3月発刊）。必ず購入してください。
----	---

学びの手立て	関連として『一条の光 屋良朝苗日記』（琉球新報）、『沖縄現代史』（岩波新書）、『沖縄戦後新聞』（琉球新報）など。
--------	--

評価	毎回提出する感想60%（15回×4点）、課題「新聞を読む」（10%）、期末レポート（30%）で評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として「沖縄の基地問題」「沖縄の歴史Ⅱ（近現代）」「沖縄戦」「政治・行政と報道」など。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の地理	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1 年	メールでお願いします。ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島や沖縄本島をはじめとする、亜熱帯地域「沖縄」における自然環境と人々の生活、文化、産業などについて、地理学の立場からアプローチを行う。講義は郷土「沖縄」が理解しやすいように、パワーポイントやVTRなどの映像資料を活用しながらやさしく行う予定である。	メッセージ 日頃から沖縄に関する出来事について、地図の上で確認する習慣を身につけてください。
	到達目標 沖縄の自然環境、社会文化、経済活動について関心をもち、将来のあるべき沖縄県の姿について探求するモチベーションをもってもらう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄の地理的位置とその概観	プリントおよび自筆ノートの確認
	2	沖縄の自然環境－地形と土壌－	プリントおよび自筆ノートの確認
	3	沖縄の気候	プリントおよび自筆ノートの確認
	4	沖縄の農業	プリントおよび自筆ノートの確認
	5	沖縄の水産業	プリントおよび自筆ノートの確認
	6	沖縄の鉱工業	プリントおよび自筆ノートの確認
	7	沖縄の商業と交通	プリントおよび自筆ノートの確認
	8	沖縄の都市地域	プリントおよび自筆ノートの確認
9	沖縄の村落地域	プリントおよび自筆ノートの確認	
10	沖縄の人口移動と移民	プリントおよび自筆ノートの確認	
11	離島地域の自然と人々の暮らし（宮古島地方）	プリントおよび自筆ノートの確認	
12	離島地域の自然と人々の暮らし（八重山地方）	プリントおよび自筆ノートの確認	
13	沖縄の地名と集落	プリントおよび自筆ノートの確認	
14	沖縄の基地問題	プリントおよび自筆ノートの確認	
15	これからの沖縄	プリントおよび自筆ノートの確認	
16	本島中南部の巡検	巡検結果のまとめ	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：毎回授業の中で、プリント配布する。中学校もしくは高校の地図帳を準備すること。 参考文献：仲田邦彦(2009)沖縄県の地理、編集工房東洋企画。 中山満，堂前亮(1983)沖縄の地理 島の自然と生活 新星出版社 シリーズ：日本の地誌 10 九州・沖縄 朝倉書店 堂前亮平(1997)沖縄の都市空間 古今書院 平岡 昭利（監修）(2003～2018)離島研究Ⅰ～Ⅴ、海青社		
	学びの手立て 授業で習った事柄について、地図上で確認、整理を行ってください。配布プリントの内容を必ず復習してください。		
	評価 成績はレポート(60%)とリアクションペーパー(40%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 共通科目：地理学Ⅰ、地理学Ⅱ
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の地理	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1 年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島や沖縄本島をはじめとする、亜熱帯地域「沖縄」における自然環境と人々の生活、文化、産業などについて、地理学の立場からアプローチを行う。講義は郷土「沖縄」が理解しやすいように、パワーポインターやVTRなどの映像資料を活用しながらやさしく行う予定である。	メッセージ 日頃から沖縄に関する出来事について、地図の上で確認する習慣を身につけてください。
	到達目標 沖縄の自然環境、社会文化、経済活動について関心をもち、将来のあるべき沖縄県の姿について探求するモチベーションをもってもらう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄の地理的位置とその概観	プリントおよび自筆ノートの確認
	2	沖縄の自然環境－地形と土壌－	プリントおよび自筆ノートの確認
	3	沖縄の気候	プリントおよび自筆ノートの確認
	4	沖縄の農業	プリントおよび自筆ノートの確認
	5	沖縄の水産業	プリントおよび自筆ノートの確認
	6	沖縄の鉱工業	プリントおよび自筆ノートの確認
	7	沖縄の商業と交通	プリントおよび自筆ノートの確認
	8	沖縄の都市地域	プリントおよび自筆ノートの確認
学びの実践	9	沖縄の村落地域	プリントおよび自筆ノートの確認
	10	沖縄の人口移動と移民	プリントおよび自筆ノートの確認
	11	離島地域の自然と人々の暮らし（宮古島地方）	プリントおよび自筆ノートの確認
	12	離島地域の自然と人々の暮らし（八重山地方）	プリントおよび自筆ノートの確認
	13	沖縄の地名と集落	プリントおよび自筆ノートの確認
	14	沖縄の基地問題	プリントおよび自筆ノートの確認
	15	これからの沖縄	プリントおよび自筆ノートの確認
	16	本島中南部の巡検	巡検内容のまとめ
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト:毎回授業の中でプリントを配布する。中学もしくは高校の地図帳を準備すること。 参考文献:仲田邦彦(2009)沖縄県の地理、編集工房東洋企画。 中山満, 堂前亮(1983)沖縄の地理 島の自然と生活 新星出版社 シリーズ:日本の地誌 10 九州・沖縄 朝倉書店 堂前亮平(1997)沖縄の都市空間 古今書院		
	学びの手立て 授業で習った地域について地図帳で必ず確認してください。配布プリントの内容も必ず復習してください。		
	評価 成績はレポート(60%)とリアクションペーパー(40%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 共通科目:地理学Ⅰ、地理学Ⅱ
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性

沖縄県における地理的環境について理解を深めるとともに、専門分野を学ぶための基礎学力を身につける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の地理	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakahama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、沖縄の自然・文化に関わる地理的事象について、島嶼地理学の視点から講義を進める予定です。とくに沖縄では、亜熱帯の気候環境のなかで、それに適応しながら多様な文化景観が紡ぎだされている。本講義では、人々の暮らしの変化から、自然と人間の関係、そして「島嶼」としての「沖縄」を考えてみたい。	メッセージ 沖縄県における多様な地理的環境について、地図資料、スライド・映像資料を用いながら、わかりやすく解説します。
	到達目標 沖縄県を含む、「琉球弧」の多様な地理的環境を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	沖縄の自然地理①－気候・気象－	配布資料の精読
	3	沖縄の自然地理②－地形・地質・土壌－	配布資料の精読
	4	沖縄の自然地理③－水文環境と水利用－	配布資料の精読
	5	沖縄の文化地理①－村落の立地と景観－	配布資料の精読
	6	沖縄の文化地理②－村落の社会構造－	配布資料の精読
	7	沖縄の文化地理③－村落空間と地名－	配布資料の精読
	8	沖縄の社会地理①－都市空間（沖縄コナベーション）の形成－	配布資料の精読
9	沖縄の社会地理②－都市への人口移動－	配布資料の精読	
10	沖縄の社会地理③－沖縄本島周辺離島の地域構造－	配布資料の精読	
11	宮古諸島の地誌①－自然環境と集落立地－	配布資料の精読	
12	宮古諸島の地誌②－中心地（マチ）の特性－	配布資料の精読	
13	八重山諸島の地誌①－自然環境と集落立地－	配布資料の精読	
14	八重山諸島の地誌②－中心地（マチ）の特性－	配布資料の精読	
15	宮古・八重山諸島の自然災害	配布資料の精読	
16	期末課題	講義全体の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特に指定はない。毎回、プリントを配布する。参考文献については、講義の中で、適宜紹介する。		
	学びの手立て 講義中に提示された参考文献を読み、單元ごとにポイントを整理しておくこと。		
	評価 授業で提示した課題（50%）とレポート（50%）によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 現在の沖縄県の地理的特異性が理解できる。他の沖縄関係科目と関連づけて学ぶと理解が深まる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 善雄	1年	授業終了後に 教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	先史時代から古琉球時代～近世琉球～近代沖縄～戦後沖縄と、時代を経て作り続けられてきた造形物（美術や工芸）のうち、特に工芸について、なかでも陶芸・漆芸・ガラス工芸を中心に、歴史的経緯に沿って見ていきます。琉球・沖縄の美術・工芸の概要を知ること、この分野あるいは他領域での、より詳細な知識獲得への意欲や、研究意欲の喚起につなげられれば良いと考えています。	それにしても美術とは何でしょう。工芸とは？ 美術工芸という言葉い方もあります。美術とは何か「知っている」人も、「知っている」と思っている」人も、「知らない」人も、この講義を受講することでこれまでの考えが変わってしまうかもしれません。でも、違った見方ができるようになれば、それは進化、成長したと言えるでしょう。沖縄について学ぶ一つのきっかけになれば幸いです。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>通説を疑い、自分なりの仮説を立てることができる。</li> <li>配布資料の内容を理解し、そのことを自分の言葉で文章化しレスポンスできる。</li> <li>美術・工芸について興味関心を持ち、展覧会等へ足を運ぶようになる。また、そこで得た感想などを自分の言葉で文章化でき、他者へ伝達できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション / 沖縄の美術・工芸についてのレディネステスト	沖縄の美術・工芸を調べておく
	2	美術とは 工芸とは 美術工芸とは	配布資料を読んで復習するとよい
	3	美術史の中で琉球・沖縄の造形をみてる	配布資料を読んで復習するとよい
	4	古琉球の造形	配布資料を読んで復習するとよい
	5	↓	配布資料を読んで復習するとよい
	6	↓	配布資料を読んで復習するとよい
	7	近世琉球の造形	配布資料を読んで復習するとよい
	8	↓	配布資料を読んで復習するとよい
	9	↓	配布資料を読んで復習するとよい
	10	近代沖縄の美術・工芸	配布資料を読んで復習するとよい
	11	↓	配布資料を読んで復習するとよい
	12	↓	配布資料を読んで復習するとよい
	13	戦後の沖縄の美術・工芸	配布資料を読んで復習するとよい
14	↓	配布資料を読んで復習するとよい	
15	沖縄の美術・工芸の今後の展開および講義のまとめ	配布資料を読んで復習するとよい	
16	テスト	配布資料を読んで復習するとよい	
テキスト・参考文献・資料など	テキストはありません。  参考文献として、株式会社東京美術発行「すぐわかる沖縄の美術」および株式会社秀学社発行「美術資料沖縄県版」を使用し、それらを活用したプリントを資料として配布します。		
学びの手立て	毎回、講義のリアクションペーパー（振り返り）等の提出物があります。それを以て出席の確認をします。休んでいる友人のものを本人が書いたかのような不正を行なって提出する学生がいました。不正は行なわないでください。全体の1/3以上を欠席した場合、履修したとみなしません。つまり6回欠席すると履修したとみなされません。これは覚えておいてください。45分を超えての遅刻は出席したとみなしません。欠席扱いとします。学びの場にふさわしい真摯な態度で望んでもらいたいです。予習をすることは難しいと思うので復習することが望ましいです。美術館や画廊での展示会などに足を運ぶようにするとよいでしょう。		
評価	毎回のリアクションペーパー（5点満点）×15回・・・75% テスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25%		

学びの継続	次のステージ・関連科目  ほかの沖縄科目もできるだけ多く履修し、沖縄についての知識を増やして、生涯にわたって沖縄に興味を持ち続けていただきたいと思います。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-花城 郁子	1年	ptt709@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球・沖縄の美術を通して外部からの影響により、作家達が内なる気づきをどのように表現してきたか、その技法や表現法を学ぶ。また自身の観賞能力を高めるようにする。	美術を社会や時代の表象と捉え、その時代に生きた人々がどのようにモノを通して表現してきたかを考えるクラス。美術に興味のある学生、苦手意識を持つ学生も共に、美術や造詣のあり方を考える場とする。
到達目標	文化、知的財産への興味を持ち、創造について理解を深め、沖縄の美術を知ること、他地域や国際間の会話の広がりを持つようになる。また表現者に敬意をはらい、自身の作品鑑賞能力が高まる。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 沖縄に深く関与した人々の解説など</li> <li>2 琉球王朝時代の絵画―王の影、御後絵-1 博物館美術館等作品鑑賞</li> <li>3 琉球王朝時代の絵画―王の影、御後絵-2 博物館美術館等作品鑑賞</li> <li>4 琉球王朝時代の絵画―国家貿易、贈答品としての鑑賞絵画 博物館美術館等作品鑑賞</li> <li>5 王権の証、ムラの守神、民衆と同居するシーサー 文化財、土産品シーサー等の観察</li> <li>6 キャンプキンザー内沖縄戦資料館、沖縄県立博物館・美術館の歴史 資料館、美術館に意識を向ける</li> <li>7 琉球・沖縄の陶芸略史（中間レポート提出予定） 観賞用・生活用陶芸を意識する</li> <li>8 戦前戦後の画家―名渡山愛順と大嶺政寛 沖縄と日本の美術シーンの比較</li> <li>9 戦争は画家をどう変えたか―美術村「ニシムイ」 戦後の画家のあり方</li> <li>10 慰霊、鎮魂の造形―摩文仁の丘、慰霊碑から見える鎮魂のあり方と将来</li> <li>11 外部からの眼差し1―岡本太郎 日本文化の古層について考える</li> <li>12 外部からの眼差し2―民藝運動家、岡村吉右衛門 工芸と自然を結びつけるもの、表現</li> <li>13 外部からの眼差し3―民藝運動と作家性、自律の課題 職人や生活美術について考える</li> <li>14 鑑賞法1 鑑賞の手がかりを模索</li> <li>15 鑑賞法2 鑑賞の手がかりを模索</li> <li>16 まとめ（最終レポート提出） 課題を通して自身の成長を感じる</li> </ol>
	テキスト・参考文献・資料など
	<p>参考文献などを記載した資料を適宜に配布。</p>
学びの手立て	やる気のある学生。講義に関係の無いインターネット閲覧、ソフト操作、私語、長時間の居眠りを行った場合は退場を命じる場合があり、またそのような学生には平常点につながるリアクションペーパーを配布しない。
評価	<p>リアクションペーパー、受講態度30%：中間レポート30%：最終レポート 40%</p> <p>リアクションペーパー：講義理解度、好奇心、語彙力、表現力</p> <p>レポート：参考資料、疑問、調査、考察、認識、自己の他者化、表現力</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生としての知的好奇心、向上心、プライドをもって自身で考え判断して下さい。</li> <li>2) 文化、美術は世代や地域・民族を越えて伝わり、考えていくもの。人生を通してゆっくり思考・嗜好・試行を構築して下さい。</li> </ol>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-花城 郁子	1年	ptt709@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球・沖縄の美術を通して外部からの影響により、作家達が内なる気づきをどのように表現してきたか、その技法や表現法を学ぶ。また自身の観賞能力を高めるようにする。	メッセージ 美術を社会や時代の表象と捉え、その時代に生きた人々がどのようにモノを通して表現してきたかを考えるクラス。美術に興味のある学生、苦手意識を持つ学生も共に、美術や造詣のあり方を考える場とする。
	到達目標 文化、知的財産への興味を持ち、創造について理解を深め、沖縄の美術を知ること、他地域や国際間の会話の広がりを持つようになる。また表現者に敬意をはらい、自身の作品鑑賞能力が高まる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	沖縄に深く関与した人々の解説など
	2	琉球王朝時代の絵画－王の影、御後絵-1	博物館美術館等作品鑑賞
	3	琉球王朝時代の絵画－王の影、御後絵-2	博物館美術館等作品鑑賞
	4	琉球王朝時代の絵画－国家貿易、贈答品としての鑑賞絵画	博物館美術館等作品鑑賞
	5	王権の証、ムラの守神、民衆と同居するシーサー	文化財、土産品シーサー等の観察
	6	キャンプキンサ ー内沖縄戦資料館、沖縄県立博物館・美術館の歴史	資料館、美術館に意識を向ける
	7	琉球・沖縄の陶芸略史 (中間レポート提出予定)	観賞用・生活用陶芸を意識する
	8	戦前戦後の画家一名渡山愛順と大嶺政寛	沖縄と日本の美術シーンの比較
	9	戦争は画家をどう変えたかー美術村「ニシムイ」	戦後の画家のあり方
	10	外部からの眼差し1－岡本太郎	日本文化の古層について考える
	11	外部からの眼差し2－民藝運動家、岡村吉右衛門	工芸と自然を結びつけるもの、表現
	12	外部からの眼差し3－民藝運動と作家性、自律の課題	職人や生活美術について考える
	13	鑑賞法1	鑑賞の手がかりを模索
	14	鑑賞法2	鑑賞の手がかりを模索
15	鑑賞法3	鑑賞の手がかりを模索	
16	まとめ (最終レポート提出)	課題を通して自身の成長を感じる	
実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献などを記載した資料を適宜に配布。		
	学びの手立て やる気のある学生。講義に関係の無いインターネット閲覧、ソフト操作、私語、長時間の居眠りを行った場合は退場を命じる場合があり、またそのような学生には平常点につながるリアクションペーパーを配布しない。		
	評価 リアクションペーパー、受講態度 30%：中間レポート 30%：最終レポート 40% リアクションペーパー：講義理解度、好奇心、語彙力、表現力 レポート：参考資料、疑問、調査、考察、認識、自己の他者化、表現力		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1) 学生としての知的好奇心、向上心、プライドをもって自身で考え判断して下さい。 2) 文化、美術は世代や地域・民族を越えて伝わり、考えていくもの。人生を通してゆっくり思考・嗜好・試行を構築して下さい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

琉球諸島でつくられた造形物（美術や工芸）について知ることで、この地域の歴史や諸外国とのつながり、文化などが見えてきます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の美術・工芸	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 善雄	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	先史時代から古琉球時代～近世琉球～近代沖縄～戦後沖縄と、時代を経て作り続けられてきた造形物（美術や工芸）特に工芸について、なかでも陶芸・漆芸・ガラス工芸を中心に、歴史的経緯に沿って見ていきます。琉球・沖縄の美術・工芸の概要を知ること、この分野あるいは他領域での、より詳細な知識獲得への意欲や、研究意欲の喚起につなげられれば良いと考えています。	それにしても美術とは何でしょう。工芸とは？美術工芸という言葉もあります。美術とは何か？知っている人も、知っている人と思っている人も、知らない人も、この講義を受講することで、これまでの考えが変わってしまうかもしれません。でも、違った見方ができるようになれば、それは進化、成長したと言えるのではないのでしょうか。沖縄について学ぶ1つの契機になれば幸いです。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通説を疑い、自分なりの仮説を立てることができる。</li> <li>・講義の内容を理解し、そのことを自分の言葉でリアクションペーパー(振り返り)やレポートなどに文章化できる。</li> <li>・美術・工芸について興味関心を持ち、展覧会等へ足を運ぶようになる。また、そこで得た感想などを自分の言葉で文章化でき、他者へ伝達できる。</li> </ul>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション / 沖縄の美術・工芸についてのレディネステスト	沖縄の美術・工芸を調べておく
	2	美術とは 工芸とは 美術工芸とは	プリントを読んで復習するとよい
	3	美術史のなかで琉球・沖縄の造形をみてる	プリントを読んで復習するとよい
	4	古琉球の造形	プリントを読んで復習するとよい
	5	↓	プリントを読んで復習するとよい
	6	近世琉球の造形	プリントを読んで復習するとよい
	7	↓	プリントを読んで復習するとよい
	8	↓	プリントを読んで復習するとよい
	9	近代沖縄の美術・工芸	プリントを読んで復習するとよい
	10	↓	プリントを読んで復習するとよい
	11	↓	プリントを読んで復習するとよい
	12	戦後の沖縄の美術・工芸	プリントを読んで復習するとよい
	13	↓	プリントを読んで復習するとよい
	14	↓	プリントを読んで復習するとよい
15	沖縄の美術・工芸の今後の展開および講義のまとめ	プリントを読んで復習するとよい	
16	テスト	プリントを読んで復習するとよい	

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストはありません。</p> <p>参考文献として、株式会社東京美術発行「すぐわかる沖縄の美術」および株式会社秀学社発行「美術資料沖縄県版」を使用し、それらを活用したプリントを資料として配布します。</p>
----------------	---

学びの手立て	<p>毎回、講義のリアクションペーパー(振り返り)等の提出物があります。それを以て出席の確認をします。休んでいる友人のものを本人が書いたかのような不正を行なって提出する学生がいました。不正は行なわないでください。全体の1/3以上を欠席した場合、履修したとみなしません。つまり6回欠席すると履修したとみなされません。これは覚えておいてください。45分を超えての遅刻は出席したとみなしません。欠席扱いとします。学びの場にふさわしい真摯な態度で望んでもらいたいです。予習をすることは難しいと思うので復習することが望ましいです。美術館や画廊での展示会などに足を運ぶようにするとよいでしょう。</p>
--------	---

評価	<p>毎回のリアクションペーパー(5点満点)×15回・・・75%</p> <p>テスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25%</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ほかの沖縄科目もできるだけ多く履修し、沖縄についての知識を増やして、生涯にわたって沖縄に興味を持ち続けていただきたいと思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の文学	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 健	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. 沖縄の文化と日本の文化を学ぶことで、視野の幅を広める。(特に文学を学ぶことで教養を高め言葉に対する感覚を磨き、豊かな表現力を身につける。)</p> <p>2. 日本文学の中での「沖縄の文学」の位置づけや意義を確認し、作品の時代背景等を学ぶことにより、沖縄と日本、そして世界との関係性を捉える。</p>	<p>沖縄にはどんな文学があるか、「戦前・占領期・復帰後」の作品の推移を学習しながら、作品の時代背景を学ぶ。沖縄の芥川賞受賞作品をはじめとする主要な散文作品を取り上げ、時代背景との関わりのなかで学ぶ。また、韻文作品(詩、短歌、俳句)を学びながら、創作も試みるなかで「沖縄の文学」への理解を深め、その可能性を探る。</p>
到達目標	<p>1. 沖縄の文学作品を学ぶことで、先人の考えや思いを理解し、作品それぞれ時代背景を学ぶことで、これからの生きる指針とすることができる。</p> <p>2. 「戦前・占領期・復帰後」の作品を通して時代や沖縄の歴史を理解することができる。</p> <p>3. 作品を読むことで読書の楽しさをわかり、創作を実践することで、言語感覚を磨くことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに「略年表から沖縄文学の足跡をたどる」(『沖縄文学選』より)	作品を読む
	2	戦前の小説を学ぶ「九年母」「奥間巡査」「滅びゆく琉球女の手記」など	作品を読む
	3	アメリカ統治下の芥川賞作品「カクテル・パーティー」「沖縄の少年」	作品を読む
	4	沖縄俳句の概観	沖縄の俳句を調べる
	5	俳句入門講座Ⅰ	資料を読む
	6	俳句入門講座Ⅱ	資料を読む
	7	俳句創作の試み	創作を試みる
8	復帰後の小説Ⅰ 芥川賞作品「水滴」「豚の報い」	作品を読む	
9	復帰後の小説Ⅱ 「風水譚」「権の川」	作品を読む	
10	戦前の琉歌・詩・短歌	戦前の詩・短歌を調べる	
11	山之口獺の詩を学ぶ	山之口獺の詩を調べる	
12	沖縄戦後の詩の世界Ⅰ	資料を読む	
13	沖縄戦後の詩の世界Ⅱ&詩創作の試み	詩を創作する	
14	沖縄戦後の短歌&短歌創作の試み	短歌を創作する	
15	まとめと課題レポートの説明	レポートを書く	
16	課題レポート提出	課題レポートの提出	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】：新装版『沖縄文学選』ー日本文学のエッジからの問いー(岡本恵徳・高橋敏夫・本浜秀彦編・勉誠出版刊・2015年) 【参考文献】・川村湊編『現代沖縄文学作品』(講談社学術文庫) ・大城貞俊著『「沖縄文学」への招待』(琉球大学ブックレット1) ・『山之口獺全集』第1巻 詩編(思潮社) ・『高校生のための沖縄の文学・近現代編』(沖縄県高校組編・沖縄時事出版) ・『沖縄戦後詩史』(大城貞俊著・編集工房 貌) ・『言振り 琉球弧からの詩・文学論』(高良勉・未来社) ・『沖縄俳句総集』(野ざらし延男編) ・その他、適宜に指示する</p>		
学びの手立て	<p>①「履修の心構え」：指定された作品は読んでおくこと。課題レポートは作品に関するものが中心です。</p> <p>②「学びを深めるために」：参考文献や紹介する作品や論文は読んでほしい。</p>		
評価	<p>【評価方法】：課題レポート(3回予定)、課題作品(1回)、授業参加状況で評価する。「課題レポート70%、課題作品20%、平常点10%」              (注：授業日数の3分の1を欠席すると、規定により不可となる。3回の遅刻は1回の欠席と見なす。)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄を舞台にした作品や沖縄出身の作家の作品を読み続けてほしい。新聞の文化欄や書評も参考にしてください。</li> </ul>
-------	---



※ポリシーとの関連性

沖縄の文化を学ぶ。特に沖縄の文学への理解を深めると共に、表現力を高め、自己実現力を身につける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の文学	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 健	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. 沖縄の文化と日本の文化を学ぶことで、視野の幅を広める。(特に文学を学ぶことで教養を高め言葉に対する感覚を磨き、豊かな表現力を身につける。</p> <p>2. 日本文学の中での「沖縄の文学」の位置づけや意義を確認していきたい。作品の時代背景を学ぶことにより、沖縄と日本、そして世界との関係性を捉える。</p>	<p>沖縄にはどんな文学があるか、「戦前・占領期・復帰後」の作品の推移を学習しながら、作品の時代背景を学ぶ。沖縄の芥川賞受賞作品をはじめとする主要な散文作品を取り上げ、時代背景との関わりのなかで学ぶ。また、韻文作品(詩、短歌、俳句)を学びながら、創作も試みるなかで「沖縄の文学」への理解を深め、その可能性を探る。</p>
到達目標	<p>1. 沖縄の文学作品を学ぶことで、先人の考えや思いを理解し、作品それぞれ時代背景を学ぶことで、これからの生きる指針とすることができる。</p> <p>2. 「戦前・占領期・復帰後」の作品を通して時代や沖縄の歴史を理解することができる。</p> <p>3. 作品を読むことで読書の楽しさが分かる。また、創作を実践することで、言語感覚を磨くことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに「略年表から沖縄文学の足跡をたどる」(『沖縄文学選』より)	作品を読む
	2	戦前の小説を学ぶ「九年母」「奥間巡査」「滅びゆく琉球女の手記」など	作品を読む
	3	アメリカ統治下の芥川賞作品「カクテル・パーティー」「沖縄の少年」	作品を読む
	4	沖縄俳句の概観	沖縄の俳句を調べる
	5	俳句入門講座Ⅰ	資料を読む
	6	俳句入門講座Ⅱ	資料を読む
	7	俳句創作の試み	創作を試みる
	8	復帰後の小説Ⅰ 芥川賞作品「水滴」「豚の報い」	作品を読む
	9	復帰後の小説Ⅱ 「風水譚」「権の川」	作品を読む
	10	戦前の琉歌・詩・短歌	戦前の詩・短歌を調べる
	11	山之口獏の詩を学ぶ	山之口獏の詩を調べる
	12	沖縄戦後の詩の世界Ⅰ	資料を読む
	13	沖縄戦後の詩の世界Ⅱ&詩創作の試み	詩を創作する
14	沖縄戦後の短歌&短歌創作の試み	短歌を創作する	
15	まとめと課題レポートの説明	レポートを書く	
16	授業の総括・振り返り	課題レポートの提出	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】：新装版『沖縄文学選』ー日本文学のエッジからの問いー(岡本恵徳・高橋敏夫・本浜秀彦編・勉誠出版刊・2015年) 【参考文献】・川村湊編『現代沖縄文学作品』(講談社学術文庫) ・大城貞俊著『「沖縄文学」への招待』(琉球大学ブックレット1) ・『山之口獏全集』第1巻 詩編(思潮社) ・『高校生のための沖縄の文学・近現代編』(沖縄県高校組編・沖縄時事出版) ・『沖縄戦後詩史』(大城貞俊著・編集工房 貌) ・『言振り 琉球弧からの詩・文学論』(高良勉・未来社) ・『沖縄俳句総集』(野ざらし延男編) ・その他、適宜に指示する</p>		
学びの手立て	<p>①「履修の心構え」：指定された作品は読んでおくこと。課題レポートは作品に関するものが中心です。</p> <p>②「学びを深めるために」：参考文献や紹介する作品や論文は読んでほしい。</p>		
評価	<p>【評価方法】：課題レポート(3回予定)、課題作品(1回)、授業参加状況で評価する。「課題レポート70%、課題作品20%、平常点10%」 (注：授業日数の3分の1を欠席すると、規定により不可となる。3回の遅刻は1回の欠席と見なす。)</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄を舞台にした作品や沖縄出身の作家の作品を読み続けてほしい。新聞の文化欄や書評も参考にしてください。</li> </ul>
-------	---

※ポリシーとの関連性

沖縄の民俗事象（信仰・年中行事・人生儀礼など）を理解し、沖縄社会における基本的な知識を修得するための導入科目。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民俗	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-城間 義勝	1年	ptt200@okiu.ac.jp、または講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄各地で継承されている伝統的な民俗事象を紹介しながら、そこに住む人々の多様な生活文化を考える。また、自分が住んでいる地域や家族との関係を見つめ直し、自己アイデンティティの確立を目指す。</p>	<p>対面講義ではパワーポイントを活用しながら各地で撮影した写真や映像を見ていただきます。分かりやすい講義を心掛けていきたいと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれ育った地域や家族に興味を持つことができる。</li> <li>・親族や地域の人々に聞き取り調査（インタビュー）ができるようになる。</li> <li>・聞き取り調査を通して、コミュニケーションがスムーズに取ることができる。</li> <li>・親族や地域の人々から伝え聞いたことをまとめることができる。</li> <li>・沖縄の民俗事象に関する知識を習得し、本土や外国出身者に説明することができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容の説明	シラバスを読むこと
	2	民俗学と沖縄研究	柳田国男や伊波普猷の著作を読む
	3	村落①（シマ）	住んでいる地域の景観を観察する
	4	村落②（聖地）	地域にある聖地について調べる
	5	村落③（聖地）	同上
	6	住居①	親族が住んでいた住居について聞く
	7	住居②	同上
	8	家族と親族①	家族の繋がりを親族から聞く
	9	家族と親族②	同上
	10	年中行事①	地域・門中・家庭の行事を聞く
	11	年中行事②	同上
	12	年中行事③	同上
	13	人生儀礼①	人生の節目に行われる儀礼を聞く
	14	人生儀礼②	同上
15	民俗調査の報告	民俗調査の手法について調べる	
16	来訪神祭祀	来訪神について調べる	

テキスト・参考文献・資料など  
 テキストはなし。講義毎にレジュメを配布する。参考文献や資料は講義毎に随時、紹介する。

学びの手立て

- 履修の心構え
  - ・私語は慎む。
  - ・講義時間（90分）の半分以上の遅刻は欠席とする。課外活動や就職活動での欠席の場合は、欠席届を提出する。
- ・講義終了時、出席票は最前列の机の上に学部学科ごとに分けて提出する。
- 学びを深めるために
  - ・本講義を受講するときは、皆さんの住んでいる地域、所属している門中、家庭と比べながら受講してほしい。
  - ・各講義を受講後、両親や祖父母、地域の先輩たちに講義内容を話しコミュニケーションを取ってもらいたい。

評価

授業参加度（60%）  
 レポート（40%）

- ・講義の中で、興味を持ったテーマを1つ取り上げ、レポートを作成する。
- ・選んだテーマに関して、必ず親・祖父母・地域の先輩方（お年寄り）から話を聞く。
- ・他府県出身の生徒や留学生は、出身地と沖縄の民俗文化を比較してもよい。

学びの継続

次のステージ・関連科目

沖縄の民俗をより深く理解するためには、沖縄関連の共通科目を受講していただきたい。また、より専門的に沖縄の民俗を学びたい方は、社会文化学科の専門科目を受講していただきたい。

※ポリシーとの関連性 沖縄の民俗文化の特色やアジアとの類縁性など身近な事例をとおし  
て理解する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民俗	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-儀間 淳一	1年	授業終了後に教室、またはE-mail等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄には先人達から受け継がれてきた民俗文化が存在する。本講義ではその由来や変遷、特色とともに、周辺諸地域との比較によって類縁性や異質性などを学び、自他の民俗文化を理解、尊重できるようにしてほしい。	メッセージ 共通科目なので、各学部・各学年の学生に理解してもらえよう、映像資料などを活用しながら説明します。
	到達目標 沖縄の民俗文化について理解し、県外や海外の人々に説明できる。周辺諸地域との比較によって文化の多様性を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要・民俗学とは	配付資料を熟読
	2	沖縄の村落①（地理的特徴）	地元の集落を歩いてみる
	3	沖縄の村落②（信仰と祭祀組織）	配付資料・参考文献を熟読
	4	沖縄の村落③（社会と経済）	配付資料・参考文献を熟読
	5	年中行事①	家の行事について調べてみる
	6	年中行事②	家の行事について調べてみる
	7	レポートについて	レポートのテーマ設定及び調査
	8	人の一生①	人生儀礼について調べてみる
9	人の一生②	人生儀礼について調べてみる	
10	祖先崇拜	配付資料・参考文献を熟読	
11	沖縄のシャーマン	配付資料・参考文献を熟読	
12	外来の信仰①	身近な外来信仰を探す	
13	外来の信仰②	身近な外来信仰を探す	
14	仕事と暮らし	地元の産業について調べる	
15	自然災害と民俗	災害に関する民話を調べる	
16	予備		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。毎回レジюмеをポータルで配信します。 参考文献はレジюмеで紹介します。		
	学びの手立て 1. 私語など他の学生の迷惑になる行為はやめましょう。 2. 講義日数の3分の1以上無断欠席した場合は不可にします。 3. やむを得ず欠席をする場合には欠席届を提出して下さい。 4. 身近な民俗事象に関心を持ちましょう。		
	評価 1. 平常点（45点）毎回講義の感想や質問をポータルで提出してもらい、出席状況と授業への参加状況を判断します。 2. レポート（55点）講義中にテーマを指定します。作成したレポートはポータルで提出してもらいます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 民俗文化は、自然・歴史・政治・経済・社会など様々な分野が影響しています。そのため、沖縄の民俗文化を深く理解するために「沖縄科目群」「社会生活科目群」「人間文化科目群」の科目を受講することをおすすめします。
-------	---

※ポリシーとの関連性 沖縄の民俗文化の特色やアジアとの類縁性など身近な事例をとおし  
て理解する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民俗	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-儀間 淳一	1年	授業終了後に教室、またはE-mail等で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄には先人達から受け継がれてきた民俗文化が存在する。本講義ではその由来や変遷、特色とともに、周辺諸地域との比較によって類縁性や異質性などを学び、自他の民俗文化を理解、尊重できるようにしてほしい。	メッセージ 共通科目なので、各学部・各学年の学生に理解してもらえよう、映像資料などを活用しながら説明します。
	到達目標 沖縄の民俗文化について理解し、県外や海外の人々に説明できる。周辺諸地域との比較によって文化の多様性を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要・民俗学とは	配付資料を熟読
	2	沖縄の村落①（地理的特徴）	地元の集落を歩いてみる
	3	沖縄の村落②（信仰と祭祀組織）	配付資料・参考文献を熟読
	4	沖縄の村落③（社会と経済）	配付資料・参考文献を熟読
	5	年中行事①	家の行事について調べてみる
	6	年中行事②	家の行事について調べてみる
	7	レポートについて	レポートのテーマ設定及び調査
	8	人の一生①	人生儀礼について調べてみる
	9	人の一生②	人生儀礼について調べてみる
	10	祖先崇拝	配付資料・参考文献を熟読
	11	沖縄のシャーマン	配付資料・参考文献を熟読
	12	外来の信仰①	身近な外来信仰を探す
	13	外来の信仰②	身近な外来信仰を探す
	14	仕事と暮らし	地元の産業について考える
	15	自然災害と民俗	災害に関する民話を調べる
	16	予備	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。毎回レジュメをポータルで配信します。 参考文献はレジュメで紹介します。		
	学びの手立て 1. 私語など他の学生の迷惑になる行為はやめましょう。 2. 講義日数の3分の1以上無断欠席した場合は不可にします。 3. やむを得ず欠席をする場合には欠席届を提出して下さい。 4. 身近な民俗事象に関心を持ちましょう。		
	評価 1. 平常点（45点）毎回講義の感想や質問（100字程度）をポータルで提出してもらい、出席状況と授業への参加状況を判断します。 2. レポート（55点）講義中にテーマを指定します。作成したレポートはポータルで提出してもらいます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 民俗文化は、自然・歴史・政治・経済・社会など様々な分野が影響しています。そのため、沖縄の民俗文化を深く理解するために「沖縄科目群」「社会生活科目群」「人間文化科目群」の科目を受講することをおすすめします。
-------	---

※ポリシーとの関連性

琉球文化を知る上で、その一つとして沖縄の民話がある。現在では調査困難である民話資料を再認識して欲しい。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の民話	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	- 梶 晴一郎	1年	講義終了後教室にて行います。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の民話は、口承文芸にとどまらず民俗・歴史・地理的環境など様々なものに影響され、織り込まれていると考える。それらをひもといていくと沖縄、琉球のグローバルは大昔からあったのだと気づいて欲しい。</p>	<p>毎回提供する資料は、沖縄国際大学の学生達が、大学設立当初から手弁当でフィールドワークを行い、録音し文字化したものである。また、話者として協力された方もほとんどが亡くなっている。それだけ貴重なものであると認識して講義を受けて欲しい。</p>

到達目標	①全てを記憶することは困難だが、どこにどのような民話があったのかを少しでも記憶にとどめて欲しい。②提供された資料を今後将来、紙芝居や絵本などにしたり、また語り手として子ども達に伝承できればなおよい。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・履修上や講義中の注意、評価の付け方などの説明。民話概要その1	柳田國男の著作本を参照
	2	民話の概要その2 神話その1	講義で紹介された書物を参照
	3	神話その2	日本神話や他国の神話との比較
	4	伝説その1	伝説と神話の違いを参照
	5	伝説その2	他県の民話集の伝説と比較
	6	伝説その3	他県の民話集の伝説と比較
	7	伝説その4	他県の民話集の伝説と比較
	8	昔話 動物昔話その1	他県の動物昔話と比較参照
	9	昔話 動物昔話その2	他県の動物昔話と比較参照
	10	昔話 本格昔話その1	他県の本格昔話と比較参照
	11	昔話 本格昔話その2	他県の本格昔話と比較参照
	12	昔話 本格昔話その3	他県の本格昔話と比較参照
	13	昔話 本格昔話その4	他県の本格昔話と比較参照
	14	昔話 笑い話その1	他県の笑い話と比較する
15	昔話 笑い話その2	他県の笑い話と比較する	
16	まとめ・レポート提出	全国の「昔話通関」を参照する	

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用しない。毎回の講義で資料を提供する。受講生の人数分しか印刷しないので紛失しないこと。また、欠席する学生は友人に頼んで貰っておくこと。新型コロナウイルスがまだ収束していないので、座席は学籍番号順に座るよう指定します。</p>
----------------	---

学びの手立て	<p>沖縄の民話を聞く中で、琉球語や民俗行事が時々出てきます。なるだけ説明しますが、前もって知っておいた方がより知識が深まるでしょう。また、伝承系譜を考えると、民俗や民族、地理歴史などにも興味を持っていた方がなるほどと思うでしょう。講義の形態としては講師が一方的に説明する形なので、居眠りをしやすい学生やおしゃべりをする学生は登録を遠慮した方がいいでしょう。</p>
--------	---

評価	<p>毎回、その民話講義の中で学問的に感じたこと、気づいたことなどを簡潔に書いて提出すること。その内容に応じて平常点とします。評価は、平常点が全体で最大75点、レポート点を最大25点として満点の100点。但し欠席を5回した学生は「単位修得無し」とします。また、レポート提出無しも「不可」とします。遅刻はその都度2点減点とします。代理出席やその他不正をした者はその場で「不可」とします。この講義はいかにたくさんのおしゃべりに接するかが肝要です。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>沖縄関係の科目は当然だが、世界各地の民俗や民族の歴史などにも関連する学問に接して欲しい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 沖縄の粘り強い歴史を見ていくことによって、自分自身の歴史の中の現在地を確認し、現代社会を生き抜く力をつけていく。

[ /一般講義 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 勝保	1年	授業終了後、またはMailで相談・問合せを受け付けます。ptt1300@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1 本講義では 沖縄を立ち位置として、日本史や世界史、特にアメリカのとの関連も見ていく（ローカルヒストリーからグローバルヒストリーへ）	伊波普猷はニーチェの言葉をもとにして「深く掘れ己の胸中の泉余所たよて水や汲まぬごと」と琉歌を詠んだ。本当の泉は、自分が今立っているところにある。沖縄の歴史を学ぶことによって、近代社会が歴史の負債を背負いつつ展開し、沖縄戦（地上戦）によって歴史の負債が重複されていった。そのなかで、自分自身のなかの泉を見つけ、生きる糧となって欲しい。
到達目標	1 近代日本のなか沖縄について考える。 2 沖縄の地域的個性の歴史的背景を知る。 3 沖縄戦の実相を知る。 4 戦後沖縄と貨幣、復帰運動を学ぶ	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖縄の風土と歴史	各回の配布資料を読んでおくこと
	2	廃琉置県と琉球救国運動①-琉球藩とは何か/沖縄県の設置の諸相	各回の配布資料を読んでおくこと
	3	廃琉置県と琉球救国運動②-琉球救国運動と日中の琉球分割交渉	各回の配布資料を読んでおくこと
	4	旧慣温存の県政-旧慣とは何か	各回の配布資料を読んでおくこと
	5	旧慣期の社会	各回の配布資料を読んでおくこと
	6	沖縄の主体性回復運動	各回の配布資料を読んでおくこと
	7	上からの改革と近代化、同化政策-日本人になる？	各回の配布資料を読んでおくこと
	8	近代沖縄とコモンズと杣山	各回の配布資料を読んでおくこと
	9	ソテツ地獄とその波紋	各回の配布資料を読んでおくこと
	10	沖縄学の展開と方言論争	各回の配布資料を読んでおくこと
	11	ユイマールの本質	この講義はレポート課題
	12	太平洋戦争のなかの沖縄戦-沖縄戦	各回の配布資料を読んでおくこと
	13	アメリカ西漸運動と沖縄	各回の配布資料を読んでおくこと
14	アメリカ統治下の沖縄①-基地建設	各回の配布資料を読んでおくこと	
15	戦貨幣貨幣-軍票・B円・ドル	各回の配布資料を読んでおくこと	
16	アメリカ統治下の復帰運動	各回の配布資料を読んでおくこと	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは『沖縄県の歴史』（安里進他、2004年、山川出版社）を使用する（1900円）。ほかに、『つながる沖縄近現代史 - 沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』必要に応じて画像などの資料を準備するパワーポイントレジュメ作成し配布する。また、時宜に応じてシラバス外の歴史情報も織り交ぜながら進めていく。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題は、講義の中身を課題とします</li> <li>・ワークシートの代筆は、欠席扱いとなります。遅刻・欠席は減点の対象となります。</li> <li>・学びを深めたい学生のために、時々テキスト以外の論文を配付します。</li> </ul>		
評価	評価は毎時間の授業に対する取り組み、毎回の講義内容理解度（ワークシート）と課題レポート（試験に代わる）2回によって評価する。配分は、毎時間の授業評価40%、課題レポート（2000～3000字）40%、受講態度＝総合的評価（授業に取り組む姿勢や意欲、おしゃべり等講義中迷惑にならないよう注意すること）20%によって評価する。歴史の現場やその展示館、たとえば『沖縄歴史地図』（柏書房）などで、場所を確認し訪ねたり、博物館を見学して、レポートを書くことで評価が高くなります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 「関連科目」：沖縄の歴史Ⅱ、沖縄の考古学、沖縄の民俗、沖縄の自然環境Ⅰ・Ⅱ 「類似科目」：沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ 「上位科目」：琉中交流史、沖縄の文学、沖縄の美術・工芸、沖縄の芸能 (2) 次のステージ：興味・関心をもった歴史事象について沖縄県史などの文献で学習を深める。歴史遺跡や博物館など、沖縄の歴史を垣間見ることが出来る遺跡や建造物を実見して欲しい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ (近現代)	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊敷 勝美	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 明治期から日本復帰前後までの沖縄の歩みを概論します。その時代の動きや住民にも焦点をあて、沖縄歴史の「見方」をさまざまな側面から捉えることができると考えます。	メッセージ 学生との対話を意識した講義を心がけます。私語等は認めませんので留意ください。
	到達目標 沖縄社会を理解する手段のひとつとして位置づけます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	①エイサー	講義資料の熟読
	2	②廃藩置県前夜の沖縄	講義資料の復讐と参考資料の確認
	3	③近代の諸改革	同上
	4	④移民Ⅰ－沖縄移民の始まり	同上
	5	⑤移民Ⅱ－国策移民と戦後移民	同上
	6	⑥沖縄戦への道	同上
	7	⑦戦争孤児－孤児院	同上
	8	⑧戦後引き揚げⅠ	同上
	9	⑨戦後引き揚げⅡ	同上
	10	⑩戦後の都市形成	同上
	11	⑪都市形成と基地建設	同上
	12	⑫コザ暴動－1970年12月20日	同上
	13	⑬毒ガス漏れ事故と移送	同上
	14	⑭復帰前後の沖縄	同上
	15	⑮沖縄人のなまえ	同上
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 特定の教科書は使用せず、テーマに沿ったレジュメを作成します。またテーマによっては、映像資料等も利用します。参考文献は、レジュメに記載します。		
	学びの手立て 学びを深めるためには議論を行い、参考文献等にもしっかりと目を通してほしい。		
	評価 期末試験60点、レポート30点、平常点10点とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学びの継続として、復習の繰り返しと、可能な限り多くの参考文献にも目を通してほしい。次のステージへのステップとしては、講義で習った歴史の出来事（事象）が起こった背景や意義（沖縄社会へ与えた影響）を意識した学習をしてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「沖縄問題」に対する視点、見識を養うことを目的とする。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡名喜 守太	1年	mrttnk@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の歴史を知り、「沖縄問題」の起源を理解し、「沖縄問題」の本質を考え、解決の道を探ることを目的とする。特に自己決定権や「イデオロギーからアイデンティティへ」の意義の理解を目指す。	メッセージ これまで学んで身につけた常識を覆す内容も多いとは思いますが、なるべくわかりやすく教えたいと思います。
	到達目標 自己決定権をはじめとする「沖縄問題」に関する最先端の知見を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	概説	授業後に内容確認等で理解を深める
	2	琉球併合論①（概説）	授業後に内容確認等で理解を深める
	3	琉球併合論②（国際法から見た琉球併合）	授業後に内容確認等で理解を深める
	4	植民地としての琉球①（同化政策 旧慣温存と法制的同化）	授業後に内容確認等で理解を深める
	5	植民地としての琉球②（同化政策 精神的同化）	授業後に内容確認等で理解を深める
	6	沖縄差別と沖縄知識人	授業後に内容確認等で理解を深める
	7	戦前の沖縄社会	授業後に内容確認等で理解を深める
	8	戦前の抵抗運動（民族運動から社会主義へ）	授業後に内容確認等で理解を深める
	9	戦前の沖縄文化（伝統文化から沖縄芝居、レコード文化の発展）	授業後に内容確認等で理解を深める
	10	沖縄文化・アイデンティティの破壊（皇民化、精神総動員運動）	授業後に内容確認等で理解を深める
	11	沖縄戦①（概説）	授業後に内容確認等で理解を深める
	12	沖縄戦②（戦争責任、法的責任と戦争犯罪。国際法から見た沖縄戦）	授業後に内容確認等で理解を深める
	13	軍事基地の形成（国際法から見た沖縄の軍事基地）	授業後に内容確認等で理解を深める
	14	「復帰」後の沖縄問題	授業後に内容確認等で理解を深める
	15	「沖縄問題」の現在	授業後に内容確認等で理解を深める
	16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。資料はその都度配布する。参考文献は講義で示す。		
	学びの手立て 目的意識、問題意識をもって受講することが望ましい。		
	評価 平常点40%、レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「イデオロギーからアイデンティティへ」や国際法の視点を身につけることによって、自己決定権の議論に参加できる。
-------	---



※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するための」の一助となるような講義を心がけています。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅱ（近現代）	後期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-恩河 尚	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 沖縄戦や基地問題等、現在の沖縄が抱える諸問題をもたらした近現代（明治時代から沖縄戦を経て戦後史まで）の歩みを概論します。	メッセージ 学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけますので、多くの質問や疑問、質疑等を期待します。また、当然ながら私語は絶対認めませんので留意下さい。
	到達目標 基地問題、環境問題等複雑な様相を示す沖縄の現代社会ではありますが、その理解の一助となるような講義を心がけます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	①沖縄人について	レジュメの復習と参考文献の参照
	2	②近代沖縄の前夜Ⅰ（牧志・恩河事件と島津成彬）	同上（レジュメの再読、三読）
	3	③近代沖縄の前夜Ⅱ（牧志・恩河事件と島津成彬）	同上
	4	④琉球処分（廃琉置県）Ⅰ（歴史的背景）	同上
	5	⑤琉球処分（廃琉置県）Ⅱ（歴史的意義）	同上
	6	⑥旧慣温存（存続）と近代諸改革Ⅰ（旧慣温存とは？）	同上
	7	⑦旧慣温存（存続）と近代諸改革Ⅱ（旧慣の廃止と近代化）	同上
	8	⑧沖縄移民の諸相Ⅰ（移民輩出の歴史的背景）	同上。移民経験者からの聞き取り
9	⑨沖縄移民の諸相Ⅱ（移民輩出の歴史的意義）	同上	
10	⑩国家総動員態勢の確立Ⅰ（沖縄戦への道）	レジュメの復習と参考文献の参照	
11	⑪国家総動員態勢の確立Ⅱ（戦時態勢下の沖縄）	同上（レジュメの再読、三読）	
12	⑫沖縄戦Ⅰ（沖縄戦の前夜）	同上。戦争体験者からの聞き取り	
13	⑬沖縄戦Ⅱ（沖縄戦の地域性）	同上	
14	⑭引き揚げと沖縄戦後史Ⅰ（沖縄戦の果たした役割）	同上。引揚者からの聞き取り	
15	⑮引き揚げと沖縄戦後史Ⅱ（今に至る沖縄戦後史）	同上	
16	テスト及びレポートの提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など 適当な教科書がないので、原則、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。		
	学びの手立て 皆さんとのキャッチボールを意識した授業に努めます。そのため、多くの質問・感想を期待します。		
	評価 評価はテストとレポートで行います。配分割合はテスト60%、レポート40%です。テストはおよそ10問程度の中から2問を選んで解答してもらいます。その際、講義で配布しているレジュメや参考文献の持ち込みは可とします。理由としては、歴史事象が起こった年代等を問うのではなく、その事象が起こった歴史的背景や意義を答えてもらうようにするためです。レポートは教題の中から1題を選んでもらい、テストの際に解答用紙と一緒に提出してもらいます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 歴史の学習は、ひたすら参考文献や資料の多読につきると考えています。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	前期	火4	2
	担当者 -平良 勝保	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業終了後、またはMailで相談・問合せを受け付けます。 ptt1300@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. 本講座では、先史時代から近世琉球までの沖縄の歴史を概説的に学ぶ。また、首里・那覇中心ではなく、広く先島や離島の歴史についても紹介していきたい。</p> <p>2. 沖縄を立ち位置として、日本史や世界史との関連も見ていく（ローカルヒストリーからグローバルヒストリーへ）</p>	<p>伊波普猷はニーチェの言葉をもとにして「深く掘れ己の胸中の泉余所たよて水や汲まぬごと」と琉歌を詠んだ。本当の泉は、自分が今立っているところにある。沖縄の歴史を学ぶことによって、自分自身のなかの泉を見つけ、生きる糧となって欲しい。</p>
到達目標	<p>1. 先史・旧石器・グスク時代の沖縄の歴史をまなび、沖縄の初期歴史的特質を理解する</p> <p>2. 琉球国前期（古琉球）の学習を通して、東アジア的港市国家の成立と、その歴史的展開を理解する。</p> <p>3. 琉球国後期（近世琉球）の学習を通して、現代沖縄の文化の成立と薩摩と琉球の関係史を理解する。</p> <p>4. 琉球王国が、中国や日本社会と関わりながらも、独自の統治システムを形成していく過程を理解する。そして、王府と農村社会との関係を見ていく。</p> <p>5. 幕末の琉球の国際的位置とその意義を理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画	時間外学習の内容		
	回	テーマ		
	1	沖縄の風土と地域的特質、受講にあたって（テキスト外）	各回の配布資料を読んでおくこと	
	2	琉球文化の基層 沖縄考古学の時代区分／琉球・沖縄人の形成	各回の配布資料を読んでおくこと	
	3	琉球文化の基層 縄文文化と南アジア系文化	各回の配布資料を読んでおくこと	
	4	大型グスクの時代 大型グスクの出現／琉球王国の成立	各回の配布資料を読んでおくこと	
	5	琉球王国の王統	各回の配布資料を読んでおくこと	
	6	海外貿易と琉球	各回の配布資料を読んでおくこと	
	7	東アジアの変動と琉球	各回の配布資料を読んでおくこと	
	8	琉球における身分制社会の成立① 士族の成立と村社会	各回の配布資料を読んでおくこと	
	9	琉球における身分制社会の成立② 海禁・鎖国と貿易	各回の配布資料を読んでおくこと	
	10	琉球における身分制社会の成立 市場と商工業／海上交通と薩摩船	各回の配布資料を読んでおくこと	
	11	琉球貿易の構造と流通ネットワーク①（テキスト外）	各回の配布資料を読んでおくこと	
	12	琉球貿易の構造と流通ネットワークー日中交易論②（テキスト外）	これをレポート課題とする（予定）	
	13	琉球の産物と三都市場（テキスト外）	各回の配布資料を読んでおくこと	
14	王国末期の社会と異国船の来航① 王国末期の様相／西洋列強のアジア進出	各回の配布資料を読んでおくこと		
15	王国末期の社会と異国船の来航② ペリー来航と外国貿易	各回の配布資料を読んでおくこと		
16	王国末期の女性像	各回の配布資料を読んでおくこと		
テキスト・参考文献・資料など	<p>講義は、メイン参考文献『沖縄県の歴史』（安里進他、2004年、山川出版社）をベースに進めていきます。しかし、上原兼善『近世琉球貿易史の研究』（岩田書院）や真栄平房昭『琉球海域史論』（上下）等を織り交ぜながら行います。時宜（新しい情報）や必要に応じて画像などの資料を含めて講義ノートを作成・配布し、講義を進めて行く。したがって、シラバスどおりではない場合もあるが、毎回ノートを配布するので購入しなくても受講できるように工夫します。また、必要に応じてパワーポイントを作成し、新しい歴史情報も織り交ぜながら進めていく。</p>			
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題は、講義内容かテキスト内容からから、年末に「ら」指示します。</li> <li>・ワークシートの代筆は、欠席扱いとなります。遅刻・欠席は減点の対象となります。</li> <li>・学びを深めたい学生のために、時々テキスト以外の論文を配付します。</li> </ul>			
評価	<p>評価は毎時間の授業に対する取り組み、毎回の講義内容理解度（ワークシート）と課題レポート（試験に代わる）2回によって評価する。配分は、毎時間の授業評価40%、課題レポート（2000～3000字）40%、受講態度＝総合的評価（授業に取り組む姿勢や意欲、おしゃべり等講義中迷惑にならないよう注意すること）20%によって評価する。歴史の現場やその展示館、たとえば『沖縄歴史地図』（柏書房）などで、場所を確認し訪ねたり、博物館を見学して、レポートを書くことで評価が高くなります。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>（1）「関連科目」：沖縄の歴史Ⅱ、沖縄の考古学、沖縄の民俗、沖縄の自然環境Ⅰ・Ⅱ 「類似科目」：沖縄前近代史Ⅰ・Ⅱ「上位科目」：琉中交流史、沖縄の文学、沖縄の美術・工芸、沖縄の芸能（2）次のステージ：興味・関心をもった歴史事象について沖縄県史などの文献で学習を深める。歴史遺跡や博物館など、沖縄の歴史を垣間見ることが出来る遺跡や建造物を実見して欲しい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するための」の一助となれるような講義を心がけています。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	前期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-恩河 尚	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 前近代（明治時代以前）の沖縄歴史を、主としてグスク時代から幕末までを通史的に行います。沖縄文化を生み出した歴史的背景を概論します。	メッセージ 複雑な様相を帯びる沖縄社会を理解する手段の一つとして、本講義を位置づけています。
	到達目標 大学に入るまでにほとんど接することのなかった沖縄の歴史や文化について、本格的に学べる機会だと思います。年代等を暗記する、いわば受験勉強の延長のような講義ではなく、例えば、首里城を自らガイドできるような、あるいは沖縄の歴史・文化の基層を学べるようになるまでを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	①グスク時代と古琉球	レジュメの復習と参考文献の参照
	2	②大交易時代と古琉球	同上（レジュメの再読、三読）
	3	③進貢貿易と大交易時代	同上
	4	④首里城と東アジア社会Ⅰ（首里城のいろいろ）	同上
	5	⑤首里城と東アジア社会Ⅱ（首里城と琉球・沖縄文化）	同上
	6	⑥薩摩侵入の歴史的背景	同上
	7	⑦薩摩侵入の歴史的意義	同上
	8	⑧間切と村（間切分割と間切制度）	同上
9	⑨間切と村（地頭と間切統治）	同上	
10	⑩沖縄人の姓名Ⅰ（姓名のなりたち）	同上	
11	⑪沖縄人の姓名Ⅱ（姓名のいろいろ）	同上	
12	⑫沖縄の道Ⅰ（海上交通）	同上	
13	⑬沖縄の道Ⅱ（陸上交通）	同上	
14	⑭近代沖縄の前夜Ⅰ（牧志・恩河事件と島津成彬）	同上	
15	⑮近代沖縄の前夜Ⅱ（幕末の沖縄）	同上	
16	テスト及びレポートの提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など 適当な教科書がないので、原則、テキストは使用せず、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。		
	学びの手立て 学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけます。そのため、多くの質問・質疑を期待します。また、当然ながら私語は絶対に認めませんので、留意下さい。		
	評価 評価はテストとレポートで行います。配分割合はテスト60%、レポート40%です。テストは10問程度の中から2問を選んで解答してもらいます。配付資料や他の文献等の持ち込み等を可とします。レポートは数テーマを課しますので、その中から1テーマを選んで調べて下さい。テストの際に、解答用紙と一緒に提出してください。いずれも独創性にあふれた解答（テスト）と、調査内容（レポート）を期待します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 配布資料に記載されている参考文献はもちろん、図書や論文等の多読を期待します。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「沖縄問題」に対する視点、見識を養うことを目的とする。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡名喜 守太	1年	mrttnk@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄の歴史を知ることによって、現在の「沖縄問題」に対する視点、見識を養い、その解決の道を探ることを目的とする。沖縄とは何か、沖縄人とは何かを知ることによって近年注目されている自己決定権に対する理解を目指す。政治史だけでなく、アイデンティティーに関連する文化についても学ぶ。	メッセージ 初めて耳にする内容も多いとは思いますが、文献資料や映像資料を用いてわかりやすく教えようと思います。
	到達目標 沖縄とは何か、沖縄人とは何かを知ることにより、その地位や権利を知り、自己決定権など「沖縄問題」に関して最先端の視点を身につけられると思う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	概説	授業後に内容確認等で理解を深める
	2	日本の自意識	授業後に内容確認等で理解を深める
	3	中世の琉球 東アジア世界の形成と琉球	授業後に内容確認等で理解を深める
	4	近世の琉球	授業後に内容確認等で理解を深める
	5	琉球の自意識 アイデンティティーの形成①	授業後に内容確認等で理解を深める
	6	琉球の自意識 アイデンティティーの形成②	授業後に内容確認等で理解を深める
	7	琉球の地位 中国との関係	授業後に内容確認等で理解を深める
	8	琉球の地位 日本との関係（琉球使節）	授業後に内容確認等で理解を深める
9	琉球の地位 西洋との関係（条約締結）	授業後に内容確認等で理解を深める	
10	精神世界の形成①	授業後に内容確認等で理解を深める	
11	精神世界の形成②	授業後に内容確認等で理解を深める	
12	精神世界の形成③	授業後に内容確認等で理解を深める	
13	琉球の社会と政治	授業後に内容確認等で理解を深める	
14	琉球併合前史（日本の幕末における琉球）	授業後に内容確認等で理解を深める	
15	まとめおよび補足	授業後に内容確認等で理解を深める	
16	レポート提出		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しない。資料はその都度配布する。参考文献は講義で示す。		
	学びの手立て 目的意識、問題意識をもって受講することが望ましい。		
	評価 平常点40%、レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の沖縄の歴史Ⅱで「沖縄問題」と自己決定権について具体的に触れる。
-------	---

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するための」の一助となれるような講義を心がけています。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖繩の歴史Ⅰ（前近代）	後期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-恩河 尚	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 前近代（明治時代以前）の沖繩歴史を、主としてグスク時代から幕末までを通史的に行います。沖繩文化を生み出した歴史的背景を概論します。後期は江戸時代後半（下記の授業計画の後半）が主となります。	メッセージ 複雑な様相を帯びる沖繩社会を理解する手段の一つとして、本講義を位置づけています。
	到達目標 大学に入るまでにほとんど接することのなかった沖繩の歴史や文化について、本格的に学べる機会だと思います。年代等を暗記する、いわば受験勉強の延長のような講義ではなく、例えば、沖繩の人の姓名についてある程度説明できるような、あるいは沖繩の歴史・文化の基層を学べるようになるまでを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	①グスク時代と古琉球	レジュメの復習と参考文献の参照
	2	②大交易時代と古琉球	同上（レジュメの再読、三読）
	3	③進貢貿易と大交易時代	同上
4	④首里城と東アジア社会Ⅰ（首里城のいろいろ）	同上	
5	⑤首里城と東アジア社会Ⅱ（首里城と琉球・沖繩文化）	同上	
6	⑥薩摩侵入の歴史的背景	同上	
7	⑦薩摩侵入の歴史的意義	同上	
8	⑧間切と村Ⅰ（間切分割と間切制度）	同上	
9	⑨間切と村Ⅱ（地頭と間切統治）	同上	
10	⑩沖繩人の姓名Ⅰ（姓名のなりたち）	同上	
11	⑪沖繩人の姓名Ⅱ（姓名のいろいろ）	同上	
12	⑫沖繩の道Ⅰ（海上交通）	同上	
13	⑬沖繩の道Ⅱ（陸上交通）	同上	
14	⑭近代沖繩の前夜Ⅰ（牧志・恩河事件と島津成彬）	同上	
15	⑮近代沖繩の前夜Ⅱ（幕末の沖繩）	同上	
16	テスト及びレポートの提出		
	テキスト・参考文献・資料など 適当な教科書がないので、原則、テキストは使用せず、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。		
	学びの手立て 学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけます。そのため、多くの質問・質疑を期待します。また、当然ながら私語は絶対に認めませんので、留意下さい。		
	評価 評価はテストとレポートで行います。配分割合はテスト60%、レポート40%です。テストは10問程度の中から2問を選んで解答してもらいます。テストは配付資料や他の文献等の持ち込み等を可とします。レポートは数テーマを課しますので、その中から1テーマを選んで調べて下さい。テストの際に、解答用紙と一緒に提出してください。いずれも独創性にあふれた解答（テスト）と、調査内容（レポート）を期待します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 配布資料に記載されている参考文献はもちろん、図書や論文等の多読を期待します。
-------	---

※ポリシーとの関連性 本学のポリシーに謳われている「自らの社会をより深く理解するための」の一助となれるような講義を心がけています。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の歴史Ⅰ（前近代）	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-恩河 尚	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 前近代（明治時代以前）の沖縄歴史を、主としてグスク時代から幕末までを通史的に行います。沖縄文化を生み出した歴史的背景を概論します。	メッセージ 複雑な様相を帯びる沖縄社会を理解する手段の一つとして、本講義を位置づけています。
	到達目標 大学に入るまでにほとんど接することのなかった沖縄の歴史や文化について、本格的に学べる機会だと思います。年代等を暗記する、いわば受験勉強の延長のような講義ではなく、例えば、首里城を自らガイドできるような、あるいは沖縄の歴史・文化の基層を学べるようになるまでを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	①グスク時代と古琉球	レジュメの復習と参考文献の参照
	2	②大交易時代と古琉球	同上（レジュメの再読、三読）
	3	③進貢貿易と大交易時代	同上
	4	④首里城と東アジア社会Ⅰ（首里城のいろいろ）	同上
	5	⑤首里城と東アジア社会Ⅱ（首里城と琉球・沖縄文化）	同上
	6	⑥薩摩侵入の歴史的背景	同上
	7	⑦薩摩侵入の歴史的意義	同上
	8	⑧間切と村Ⅰ（間切分割と間切制度）	同上
9	⑨間切と村Ⅱ（地頭と間切統治）	同上	
10	⑩沖縄沖縄人の姓名（姓名のなりたち）	同上	
11	⑪沖縄人の姓名Ⅱ（姓名のいろいろ）	同上	
12	⑫沖縄の道Ⅰ（海上交通）	同上	
13	⑬沖縄の道Ⅱ（陸上交通）	同上	
14	⑭近代沖縄の前夜Ⅰ（牧志・恩河事件と島津成彬）	同上	
15	⑮近代沖縄の前夜Ⅱ（幕末の沖縄）	同上	
16	テスト及びレポートの提出		
	テキスト・参考文献・資料など 適当な教科書がないので、原則、テキストは使用せず、毎回、テーマに沿ったレジュメを作成・配布します。また、参考文献は、レジュメにその都度、掲載します。		
	学びの手立て 学生さんとのキャッチボールを意識した講義を心がけます。そのため、多くの質問・質疑を期待します。また、当然ながら私語は絶対に認めませんので、留意下さい。		
	評価 評価はテストとレポートで行います。配分割合はテスト60%、レポート40%です。テストは10問程度の中から2問を選んで解答してもらいます。配付資料や他の文献等の持ち込み等を可とします。レポートは数テーマを課しますので、その中から1テーマを選んで調べて下さい。テストの際に、解答用紙と一緒に提出してください。いずれも独創性にあふれた解答（テスト）と、調査内容（レポート）を期待します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 配布資料に記載されている参考文献はもちろん、図書や論文等の多読を期待します。
-------	---